

基本理念

Health for All, All for Health

～すべての人に健康を、健康に全力を～

基本方針

一次・二次・三次予防の包括的な健康支援

生涯を通じた健康支援

受診者第一主義の健康支援

新たな予防医療システムの構築

教育研修機関としての使命と役割

センタービジョン

これからも地域社会から選ばれ続ける予防医療施設を目指す

概 要

1. 施設概要

(1) 名 称	日本赤十字社熊本健康管理センター
(2) 所在地	熊本市東区長嶺南二丁目 1-1
(3) 開設年月日	昭和 53 年 4 月 1 日
(4) 許可病床数	19 床
(5) 敷地面積	5,868.17 m ²
(6) 建 物	



北館・南館及び管理棟	延床面積	10,626.94 m ²
	竣工年月日	平成 9 年 5 月 31 日
東館	延床面積	1,827.85 m ²
	竣工年月日	平成 17 年 3 月 31 日

2. 施設認定

認定年月	認定機関	認定内容
平成 7 年 4 月	熊本県がん検診従事者(機関)認定協議会	肺がん一次検診機関
平成 7 年 4 月	熊本県がん検診従事者(機関)認定協議会	胃がん精密検査機関
平成 10 年 10 月	一般社団法人日本消化器がん検診学会	認定指導施設
平成 12 年 6 月	公益社団法人全国労働衛生団体連合会 労働衛生サービス機能評価委員会	労働衛生サービス機能評価認定 「健康診断」「ストレス対策支援」
平成 17 年 4 月	熊本県がん検診従事者(機関)認定協議会	肝臓病認定医支援機関
平成 17 年 10 月	一般社団法人日本病院会 公益社団法人日本人間ドック・予防医療学会 ※	人間ドック健診施設機能評価認定
平成 22 年 5 月	一般社団法人日本脳ドック学会	脳ドック施設
平成 24 年 4 月	公益社団法人日本産業衛生学会	日本産業衛生学会研修施設
平成 25 年 4 月	公益社団法人日本人間ドック・予防医療学会 ※ 一般社団法人日本総合健診医学会	人間ドック健診研修施設
平成 25 年 6 月	日本乳がん検診精度管理中央機構	マンモグラフィ検診施設画像認定
令和 4 年 9 月	熊本県	熊本県 SDGs 登録事業者 (第 3 期)

※令和 6 年 4 月 1 日より、「公益社団法人日本人間ドック学会」から名称変更

3. 外部精度管理調査

精度管理実施団体	精度管理項目	評価
公益社団法人全国労働衛生団体連合会 R3(2022)年度	胸部 X 線検査	A (優)
	胃部 X 線検査	A (優)
	腹部超音波検査	A (優)
	臨床検査	A (優)
	労働衛生検査 (B 参加)	A (優)
NPO 法人日本乳がん検診精度管理中央機構 (2022/11/1～2025/10/31)	マンモグラフィ検査	合格 (B)

4. 医療機器等

医療機器	機 材	台数	機 材	台数
	MRI 診断装置	1	超音波診断装置	15
	全身用コンピュータ断層 (ヘリカル CT) 撮影装置	1	上部消化管ビデオスコープ (胃カメラ)	25
	乳房 X 線撮影装置 (マンモグラフィ)	2	下部消化管ビデオスコープ (大腸ファイバー)	16
	胃部 X 線撮影装置	5	骨 X 線測定装置	1
	胸部 X 線撮影装置	2		
検診車	車 種	台数	車 種	台数
	胃部 X 線検診車	3	マンモグラフィ検診車	1
	胸部 X 線検診車	3	子宮がん検診車	1
	超音波検診車	8	骨密度検診車	1

5. 沿革

昭和 53 年	4 月	日本赤十字社熊本県支部診療所健康管理センター開設
	6 月	名誉副総裁常陸宮妃殿下御臨席のもと落成式挙行
昭和 54 年	6 月	機関誌「ハイ健康です」創刊以降、定期的に発行
	8 月	健康管理センター増改築起工式
	10 月	日赤記念体育館（運動療法センター）起工式
昭和 55 年	3 月	健康管理センター増改築・日赤記念体育館合同落成式
昭和 58 年	5 月	健康まつり（健康管理センター5周年記念）開催
昭和 59 年	1 月	集団検診にコンピュータシステム導入
	3 月	腹部超音波を用いた集団検診開始
	12 月	健康管理センター第二次増改築工事竣工
昭和 60 年	1 月	健康管理センター別館の落成式挙行
昭和 61 年	11 月	人間ドックにコンピュータシステム導入
昭和 62 年	6 月	人間ドックの土・日コースを開始
昭和 63 年	5 月	日赤健康まつり（健康管理センター創立 10 周年記念式典）開催
平成元年	4 月	「滞在型セミナー」など健康増進活動開始
	5 月	日赤熊本県支部 100 周年記念において名誉副総裁高円宮妃殿下御来熊
平成 2 年	4 月	中央労働災害防止協会労働者健康保持増進サービス機関認定（令和 3 年末廃止）
	9 月	予防医学事業中央会「健康教育賞」受賞
平成 3 年	3 月	社会保険大会「優良事業所」受賞
平成 4 年	4 月	全国労働衛生団体連合会加盟
平成 5 年	5 月	「日本赤十字社熊本健康管理センター」に改称
	6 月	女性専門ドック（現レディースドック）開始
平成 6 年	2 月	社団法人日本病院会優良二日ドック施設認定
	4 月	財団法人産業医学振興財団職域健康診断実施機関指定機関認定（平成 21 年度末終了）
平成 7 年	4 月	中央労働災害防止協会健康診断機関名簿登録（令和 4 年度末終了） 頭部 CT 検査、循環器・消化器コース新設
平成 8 年	4 月	健康管理センター新館起工式 日本総合健診医学会優良総合健診施設認定（平成 21 年 11 月末終了）
	8 月	第 37 回日本人間ドック学会 熊本開催（事務局担当）

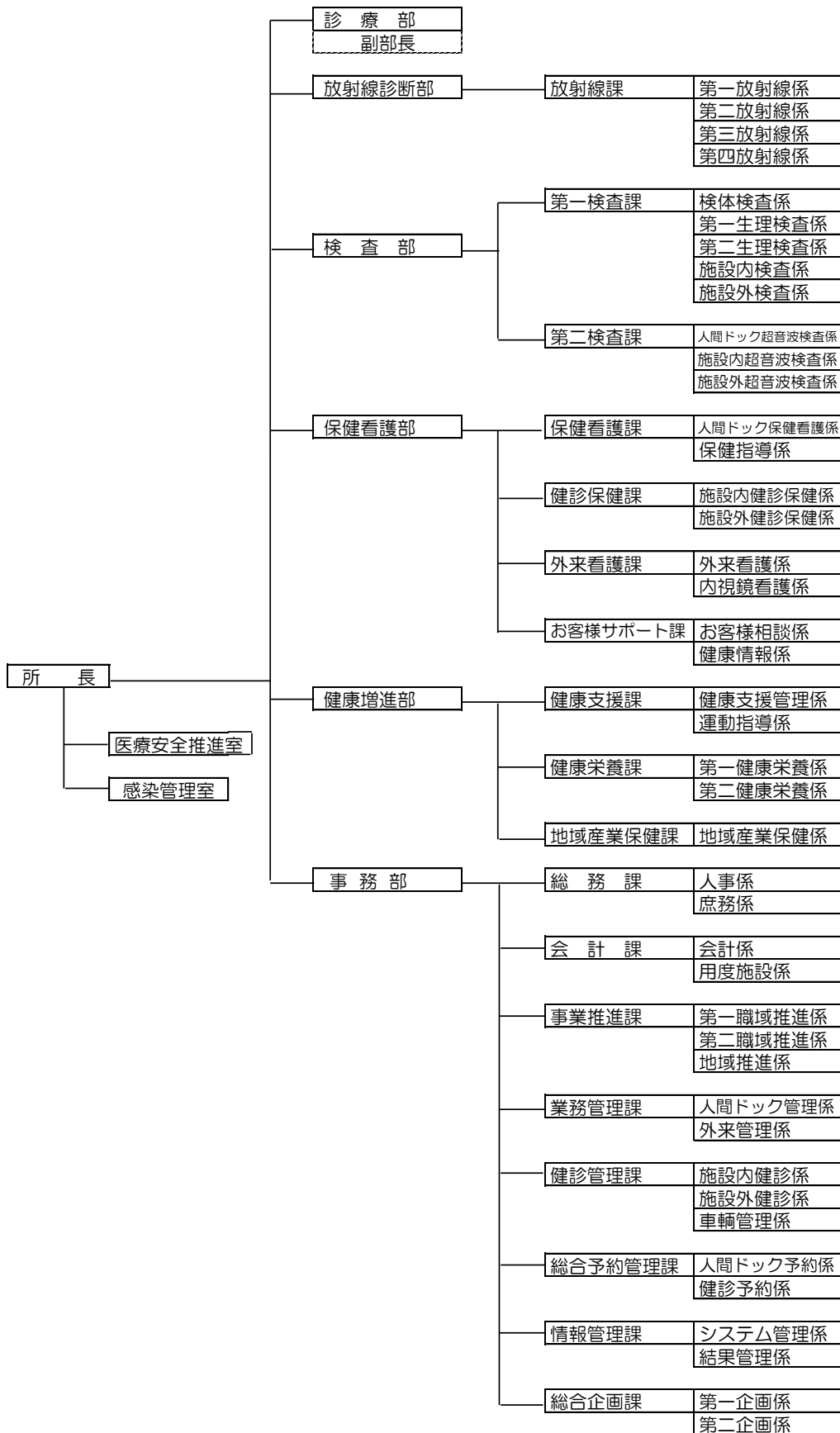
- 平成9年 6月 健康管理センター新館竣工
 創立20周年記念「健康フェスティバル」開催（～8月、4回実施）
 歯科検診・頭部MRIコースを開始
 8月 健康外来を新設・別館（管理棟）改築工事完了
 9月 健康だより「日赤健康かわら版」創刊、定期的に発行（平成24年度末終了）
 10月 脳専門ドック開始
- 平成10年 1月 創立20周年記念式典、新館落成式
 4月 保険医療機関指定
 6月 保険診療業務開始
 10月 日本消化器集団検診学会指導施設認定
- 平成11年 11月 第9回日本健康医学会 熊本開催（事務局担当）
- 平成12年 6月 全国労働衛生団体連合会労働衛生機関評価機構施設認定
 7月 第10回九州農村医学会 熊本開催（事務局担当）
- 平成13年 1月 日本総合健診医学会第29回大会 熊本開催（事務局担当）
 4月 胸部CT検診開始
- 平成14年 2月 日本健康・栄養システム学会第1回九州地方会 熊本開催（事務局担当）
 10月 保健文化賞受賞
 第12回日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会 熊本開催（事務局担当）
- 平成15年 3月 創立25周年記念および保健文化賞受賞記念式典
- 平成16年 6月 第3回日本健康・栄養システム学会 熊本開催（事務局担当）
 8月 PET-CT診断センター起工式
 9月 防火対象物点検報告 特例認定（消防法第8条の2の3第1項）
- 平成17年 3月 PET-CT診断センター竣工
 4月 （施設内）マンモグラフィ検診業務開始
 6月 PET-CT診断センター業務開始
 10月 日本病院会・日本人間ドック学会 人間ドック・健診施設機能評価認定
- 平成18年 4月 （施設外）マンモグラフィ検診業務開始
 9月 アセテートPET検査、メチオニンPET検査研究開始
- 平成19年 4月 院外処方開始
 受診者会員制度「優友クラブ」発足
 11月 日経地域情報化大賞2007「日経産業新聞賞」受賞

平成 20 年	8 月	創立 30 周年記念講演会開催
平成 21 年	4 月	日本人間ドック学会・人間ドック専門医制度委員会 人間ドック専門医制度研修施設認定
平成 22 年	5 月	一般社団法人日本脳ドック学会 脳ドック施設認定
	7 月	ペースメーカー外来開設（令和 2 度未終了）
	11 月	人間ドック宿泊室リニューアル
平成 23 年	1 月	ピロリ除菌外来開設
	3 月	東日本大震災 救護班派遣（～5 月）
平成 24 年	4 月	社団法人日本産業衛生学会 研修施設認定
平成 25 年	2 月	九州予防医学研究会第 14 回学術大会 熊本開催（事務局担当）
平成 28 年	4 月	創立 35 周年記念 「日赤健康菓膳レシピ集」 発刊
	4 月	熊本地震発生 5 日間業務停止 救援活動実施
	8 月	日本核医学会 PET サマーセミナー in 熊本（大会長、事務局担当）
平成 29 年	3 月	PET-CT 診断センター 業務終了
	3 月	日赤健康菓膳「元気ごはん」 発刊
平成 31 年	3 月	九州予防医学研究会第 20 回学術大会 熊本開催（事務局担当）
令和 2 年	7 月	熊本豪雨災害 救護班・こころのケア班派遣
令和 3 年	4 月	健診・人間ドックにかかる基幹システム更新
令和 4 年	2 月	第 23 回九州沖縄健診施設研究会・第 6 回九州健診経営研究会 合同開催 会場：熊本（大会長、事務局担当）
	4 月	マイナンバーカードオンライン資格確認システム導入
	9 月	熊本県 SDGs 登録事業者（第 3 期）登録
令和 5 年	2 月	第 24 回九州沖縄健診施設研究会・第 7 回九州健診経営研究会 合同開催 会場：熊本（大会長、事務局担当）
令和 6 年	1 月	能登半島地震 救護班・こころのケア班派遣（～3 月）

6. 組織

(1)組織図

6部18課43係 令和6年3月31日現在



(2)課別課員数

令和6年3月31日現在

部	課	正職	嘱託	臨時	パート	計
診療部		10	1	10	0	21
放射線診断部	放射線課	18	3	0	12	33
検査部	第一検査課	23	17	0	4	44
	第二検査課	21	2	0	0	23
保健看護部	保健看護部長	1	0	0	0	1
	保健看護課	8	9	5	11	33
	健診保健課	8	9	1	3	21
	外来看護課	12	10	0	11	33
	お客様サポート課	9	1	1	1	12
健康増進部	健康支援課	3	4	0	0	7
	健康栄養課	4	9	1	11	25
	地域産業保健課	5	3	0	3	11
事務部	事務部長	1	0	0	0	1
	総務課	6	2	1	2	11
	会計課	5	3	0	0	8
	事業推進課	8	4	0	0	12
	業務管理課	5	11	0	2	18
	健診管理課	8	14	1	0	23
	総合予約管理課	4	14	1	1	20
	情報管理課	7	5	0	3	15
	総合企画課	3	1	0	0	4
合計		169	122	21	64	376

(3)年齢別職員構成

令和6年3月31日現在

年 齢	職 種	医師	医療 技術職	保健師	事務職	その他	計
				看護師			
～19歳		0	0	0	0	0	0
20～24歳		0	6	0	5	1	12
25～29歳		0	9	2	11	0	22
30～34歳		0	4	9	11	0	24
35～39歳		0	9	11	17	2	39
40～44歳		1	9	13	22	4	49
45～49歳		2	13	19	11	5	50
50～54歳		4	21	13	17	5	60
55歳～		14	34	23	22	27	120
合計		21	105	90	116	44	376
平均年齢(歳)		62	47	47	43	53	47

(4) 役職員名簿

令和6年3月31日現在

所長	吉田 稔	名誉所長	小山 和作
		名誉所長	緒方 康博

【診療部】

診療部長	山本 恵三	診療部副部長	高澤 英人 窪田 健一 宮山 祐美子
------	-------	--------	--------------------------

【放射線診断部】

放射線診断部長(兼)	山本 恵三
------------	-------

放射線課

放射線課長	大久保 秀	第一放射線係長	江藤 清隆
		第二放射線係長	右田 健治
		第三放射線係長	川上 博則
		第四放射線係長	杉浦 さや

【検査部】

検査部長	大竹 宏治
------	-------

第一検査課

第一検査課長	北川 淳一	検体検査係長	小鷹 多美
		第一生理検査係長	黒川 朱子
		第二生理検査係長	松永 由紀子
		施設内検査係長	古閑 満寿美
		施設外検査係長	山口 勝利

第二検査課

第二検査課長	田中 信次	人間ドック超音波検査係長	阪本 美紀
		施設内超音波検査係長	竹本 京子
		施設外超音波検査係長	清田 健一

【保健看護部】

保健看護部長	盛川 恵美子
--------	--------

保健看護課

保健看護課長	後藤 由美子	人間ドック保健看護係長	松下 宏美
		保健指導係長	川田 晶子

健診保健課

健診保健課長	江口 みかる	施設内健診保健係長	松本 貴子
		施設外健診保健係長	岩本 奈里

外来看護課

外来看護課長	潮谷 豊美	課長補佐	西澤 美奈子
		(兼)外来看護係長	
		内視鏡看護係長	福永 憲子

お客様サポート課

お客様サポート課長	石本 裕美	お客様相談係長	小原 ひふみ
		課長補佐	森元 栄子
		(兼)健康情報係長	

【健康増進部】

健康増進部長	野波 善郎
--------	-------

健康支援課

健康支援課長	作田 麻子	(兼)健康支援管理係長	作田 麻子
		運動指導係長	宮本 裕士

健康栄養課

健康栄養課長	生山 由利子	第一健康栄養係長	吉川 美津代
		第二健康栄養係長	嶋田 けい

地域産業保健課

地域産業保健課長	中野 裕美	地域産業保健係長	河野 富美香
----------	-------	----------	--------

【事務部】

事務部長	島田 雅美
------	-------

総務課

総務課長	吉本 貴子	人事係長	草西 純子
		庶務係長	八田 晴生

会計課

会計課長	工藤 恭子	会計係長	黒木 豊
		(兼)用度施設係長	工藤 恭子

事業推進課

事業推進課長	若木 陽子	第一職域推進係長	末吉 美奈子
		第二職域推進係長	盛島 由貴
		地域推進係長	中河 美穂

業務管理課

業務管理課長	伊藤 紀代美	人間ドック管理係長	中野 政幸
		(兼)外来管理係長	伊藤 紀代美

健診管理課

健診管理課長	森下 浩之	施設内健診係長	鶴田 祐一郎
		施設外健診係長	稲葉 修一郎
		(兼)車輛管理係長	

総合予約管理課

総合予約管理課長	東 敬之	人間ドック予約係長	菊池 由子
		健診予約係長	安藤 貴子

情報管理課

情報管理課長	西山 八代	システム管理係長	古賀 智美
		結果管理係長	中野 加恵子

総合企画課

総合企画課長	永田 成子	第一企画係長	下小川 聖子
		第二企画係長	豊永 一秀

(5) 認定

①医師

令和6年3月31日現在

資格・認定内容	氏名
社会医学系指導医・専門医 【社会医学系専門医協会】	野波善郎 吉野俊美
日本産業衛生学会指導医 【日本産業衛生学会】	野波善郎 吉野俊美
労働衛生コンサルタント（保健衛生） 【厚生労働省】	吉野俊美 宮川比佐子
産業医学ディプロマ【産業医科大学】	野波善郎
認定産業医 【日本医師会】	野波善郎 窪田健一 成田泰子 吉野俊美 宮川比佐子 成田和美 東憲孝 宮本佳奈
人間ドック指導医 【日本人間ドック学会】	大竹宏治 窪田健一 宮本佳奈
人間ドック専門医 【日本人間ドック学会】	大竹宏治 窪田健一 宮本佳奈
人間ドック認定医 【日本人間ドック学会】	吉田稔 大竹宏治 窪田健一 豊永政和 宮本佳奈 緒方康博
遺伝学的検査アドバイザー 【日本人間ドック学会】	窪田健一
総合内科専門医 【日本内科学会】	宮山祐美子 宮川比佐子 宮本佳奈 本田佳生
認定内科医 【日本内科学会】	吉田稔 川口哲 成田和美 東憲孝 明石隆吉
循環器専門医 【日本循環器学会】	本田佳生
消化器病専門医 【日本消化器病学会】	川口哲 成田和美
消化器内視鏡指導医 【日本消化器内視鏡学会】	川口哲 成田和美 明石隆吉
消化器内視鏡専門医 【日本消化器内視鏡学会】	川口哲 成田和美 明石隆吉
消化器がん検診指導医・総合認定医 【日本消化器がん検診学会】	川口哲
消化器がん検診認定医 【日本消化器がん検診学会】	(肝胆膵)大竹宏治
胃腸科認定医 【日本消化管学会】	宮山祐美子
呼吸器指導医・専門医 【日本呼吸器学会】	宮川比佐子 東憲孝
インフュージョンコントロールクター(日本呼吸器学会推薦) 【ICD 制度協議会】	宮川比佐子 東憲孝
結核・抗酸菌症認定医 【日本結核 非結核性抗酸菌症学会】	宮川比佐子
肺がんCT検診認定医師 【肺がんCT検診認定機構】	東憲孝
放射線診断専門医 【日本医学放射線学会】	富口静二

資格・認定内容	氏名
核医学専門医 【日本核医学会】	富口静二
脳神経外科専門医 【日本脳神経外科学会】	山本恵三
産婦人科専門医 【日本産科婦人科学会】	西村弘
婦人科腫瘍専門医【日本婦人科腫瘍学会】	西村弘
血液専門医 【日本血液学会】	宮本佳奈
超音波指導医(消化器)・専門医 【日本超音波医学会】	大竹宏治
プライマリ・ケア認定医【日本プライマリ・ケア連合学会】	吉田稔
検診マンモグラフィ読影医師 【日本乳がん検診精度管理中央機構】	高澤英人 吉野俊美 豊永政和
がん治療認定医 【日本がん治療認定医機構】	吉田稔 西村弘
がん薬物療法専門医 【日本臨床腫瘍学会】	吉田稔
日本アレルギー学会指導医(内科) 【日本アレルギー学会】	東憲孝
抗菌化学療法指導医 【日本化学療法学会】	宮川比佐子
初級呼吸ケア指導士【日本呼吸ケア・リハビリテーション学会】	宮川比佐子
JMECCインストラクター 【日本内科学会】	宮川比佐子
ICLSインストラクター 【日本救急医学会】	宮川比佐子
CKD(慢性腎臓病)対策推進「病診連携医」 【熊本市】	大竹宏治 窪田健一
肝臓病認定医 【熊本県がん検診従事者(機関)認定協議会】	川口 哲
肺がん検診読影医師 【熊本県がん検診従事者(機関)認定協議会】	宮川比佐子 東憲孝 富口静二
肺がん一次検診総合判定医師 【熊本県がん検診従事者(機関)認定協議会】	富口静二

②医療技術者等

資格・認定	人数	資格・認定	人数
胃がん検診専門技師 【日本消化器がん検診学会】	7	超音波検査士 体表臓器領域 【日本超音波医学会】	30
胃X線検診読影補助認定技師 【日本消化器がん検診学会】	3	超音波検査士 消化器領域 【日本超音波医学会】	34
胃がんX線検診撮影部門資格検定 【日本消化器がん検診精度管理評価機構】	1	超音波検査士 泌尿器領域 【日本超音波医学会】	21
胃がんX線検診読影部門資格検定 【日本消化器がん検診精度管理評価機構】	3	超音波検査士 健診領域 【日本超音波医学会】	2
肺がんCT検診認定技師 【肺がんCT検診認定機構】	4	超音波検査士 循環器領域 【日本超音波医学会】	5
検診マンモグラフィ撮影認定技師 【日本乳がん検診精度管理中央機構】	7	人間ドック健診情報管理指導士 【日本人間ドック学会】	3
第1種放射線取扱主任者 【原子力規制委員会】	1	産業カウンセラー 【日本産業カウンセラー協会】	3
骨粗鬆症マネージャー 【日本骨粗鬆症学会】	1	禁煙認定指導保健師・看護師 【日本禁煙学会】	3
医療画像情報 精度管理士 【日本診療放射線技師会】	3	消化器内視鏡技師 【日本消化器内視鏡学会】	3
放射線管理士 【日本診療放射線技師会】	2	糖尿病療養指導士 【日本糖尿病療養指導士認定機構】	4
放射線機器管理士 【日本診療放射線技師会】	2	糖尿病教育ファシリテーター 【日本糖尿病協会】	2
医療情報技師 【日本医療情報学会】	4	認定歯科衛生士（糖尿病予防指導） 【日本歯科衛生士会】	1
細胞検査士 【日本臨床細胞学会】	5	熊本地域糖尿病療養指導士 【熊本地域糖尿病療養指導士認定委員会】	26
国際細胞検査士【国際細胞学会】	1	肝疾患コーディネーター 【熊本県】	45
有機溶剤作業主任者技能講習修了 【熊本県労働基準協会】	2	HAPPYプログラム使用権取得コース修了 【国立病院機構 肥前精神医療センター】	2
特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者 技能講習修了【熊本県労働基準協会】	1	認定心理士 【日本心理学会】	1
認定心電検査技師 【日本臨床衛生検査技師会】	1	ジャパンハートクラブ認定トレーナー 【ジャパンハートクラブ】	1
心電図検定1級、2級、3級 【日本不整脈心電学会】	5	BLSプロバイダー・ACLSプロバイダー 【日本ACLS協会】	1
血管診療技師【日本血管外科学会・日本脈管学 会・日本静脈学会・日本動脈硬化学会 4学会 構成血管診療技師認定機構】	2	フットケアセラピスト 【JRFA日本リラクゼーションフットケア協 会】	3

資格・認定	人数	資格・認定	人数
健康経営アドバイザー 【東京商工会議所】	1	社会福祉士 【厚生労働省】	2
健康経営エキスパートアドバイザー 【東京商工会議所】	2	第一種衛生管理者 【厚生労働省】	11
健康運動指導士 【健康・体力づくり事業財団】	6	特定健診・特定保健指導実践者研修修了 【熊本県・協会けんぽ・栄養士会等】	62
健康運動実践指導者 【健康・体力づくり事業財団】	2	【赤十字】 ・医療対話推進者養成研修修了 3 ・こころのケア指導員 5 ・救急法指導員 9 ・水上安全法指導員 1 ・健康生活支援講習指導員 2 ・幼児安全法指導員 2	
フードサイエンティスト 【食品科学教育協議会】	1		
診療報酬請求事務能力認定(医科) 【日本医療保険事務協会】	1		
診療情報管理士 【日本病院会・全日本病院協会・日本医療法人協会・日本精神科病院協会・医療研修推進財団】	1		

7. 行事・出来事

(1)年間行事・出来事

月 日	行 事
4月3日	日赤熊本入社式・辞令交付式
4月3日	日赤熊本新規採用職員研修会
4月4日	新規採用職員研修会
10月12日	新採用職員消防訓練
11月7～9日	消防訓練(設備・操作等)
12月26日	消防訓練(避難誘導)
12月28日	経営状況報告会、仕事納め式
1月4日	仕事始め式
2月22日	BCP訓練
2月29日	令和5年度健診・保健事業担当者研修会 (WEB配信)

(2)表彰

名 称	受 賞 者
公益社団法人全国労働衛生団体連合会 「功績賞」	業務管理課長(兼)外来管理係長 伊藤紀代美
公益社団法人全国労働衛生団体連合会 「奨励賞」	第一検査課 臨床検査技師 松村 和子
	第二検査課 臨床検査技師 久保 美樹
予防医学事業中央会 「奨励賞」	放射線課 診療放射線技師 小山 慶子
	第二検査課 主任 田上 恵

事業

1.令和5年度健診等事業実績

事業分類		4月	5月	6月	7月
人間ドック事業	総合コース	114	105	175	263
	総合+胸部CTコース	58	70	104	78
	シニアドック	100	123	0	0
	2日ドック合計	272	298	279	341
	標準コース	1,435	1,621	1,977	1,844
	消化器コース	178	175	270	282
	レディースコース	119	116	209	202
	シニアドック・ひまわりドック	143	158	0	0
	1日ドック合計	1,875	2,070	2,456	2,328
	人間ドック事業	2,147	2,368	2,735	2,669
健診事業	協会けんぽ生活習慣病予防健診	929	1,170	1,733	1,587
	付加健診	40	52	76	77
	日赤生活習慣病健診	1,065	998	1,266	1,042
	定期健診	1,280	682	48	70
	住民健診	161	257	199	220
	その他健診	61	135	92	93
	施設内健診合計	3,536	3,294	3,414	3,089
	協会けんぽ生活習慣病予防健診	75	99	0	0
	日赤生活習慣病健診	1,772	2,589	3,517	5,010
	定期健診	333	32	57	39
	住民健診	3,102	3,567	4,131	2,358
	その他健診	1,866	852	294	275
	施設外健診合計	7,148	7,139	7,999	7,682
	健診事業	10,684	10,433	11,413	10,771
	健康増進事業	産業保健サポート	73	69	66
産業医事業合計		73	69	66	71
健康セミナー (回数)		0	0	0	0
職員派遣(講演他) (回数)		0	0	0	0
その他健康増進事業 (回数)		1	0	11	8
継続型健康セミナー		0	0	0	0
保健師派遣		0	0	1	0
健康増進事業合計		1	0	12	8
積極的支援		345	427	469	379
動機づけ支援		268	391	427	360
特定保健指導合計	613	818	896	739	
健康支援事業	687	887	974	818	
外来事業	保険診療	433	449	515	472
	自由診療	0	1	0	1
	外来診療合計	433	450	515	473
外来事業	433	450	515	473	

(単位：人)

8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
212	234	288	240	187	181	243	110	2,352
93	83	86	60	71	44	67	54	868
0	0	0	0	0	0	45	68	336
305	317	374	300	258	225	355	232	3,556
1,976	1,782	1,847	1,765	1,778	1,498	1,591	1,425	20,539
282	291	304	262	247	171	196	195	2,853
218	203	215	195	206	170	167	111	2,131
0	0	0	0	0	0	59	143	503
2,476	2,276	2,366	2,222	2,231	1,839	2,013	1,874	26,026
2,781	2,593	2,740	2,522	2,489	2,064	2,368	2,106	29,582
1,543	1,604	1,622	1,577	1,014	901	931	645	15,256
87	81	81	85	67	39	52	32	769
1,730	1,719	1,141	1,180	1,275	1,121	1,475	1,030	15,042
108	94	111	108	174	110	104	113	3,002
267	307	368	309	502	298	403	526	3,817
122	105	344	491	348	449	165	73	2,478
3,857	3,910	3,667	3,750	3,380	2,918	3,130	2,419	40,364
7	515	350	84	144	101	452	346	2,173
4,211	1,164	2,086	1,862	668	1,663	470	764	25,776
25	157	480	383	9	0	0	0	1,515
4,094	4,840	5,133	2,675	1,167	386	0	0	31,453
1,158	1,668	2,298	1,965	1,103	2,082	470	1,146	15,177
9,495	8,344	10,347	6,969	3,091	4,232	1,392	2,256	76,094
13,352	12,254	14,014	10,719	6,471	7,150	4,522	4,675	116,458
71	70	75	79	83	83	89	84	913
71	70	75	79	83	83	89	84	913
1	0	0	0	0	0	8	0	9
1	0	3	5	2	4	2	2	19
5	9	73	17	5	6	19	10	164
0	0	0	0	0	1	0	0	1
2	10	24	3	0	4	2	0	46
9	19	100	25	7	15	31	12	239
416	394	496	483	420	422	474	381	5,106
361	403	447	435	394	419	473	371	4,749
777	797	943	918	814	841	947	752	9,855
857	886	1,118	1,022	904	939	1,067	848	11,007
483	511	553	499	558	458	477	539	5,947
1	4	0	0	1	2	0	1	11
484	515	553	499	559	460	477	540	5,958
484	515	553	499	559	460	477	540	5,958

2. 人間ドック事業

<概要>

総合的な健康診断として疾病の早期発見及び生活習慣病の予防・改善を目指すと共に、健康な方の更なる健康の維持・増進を目的とした標準コースに加え、消化器や婦人科を専門的に検査する各種コースを設定している。今年度からは子宮頸部細胞診の検査方法をより精度の高い液状検体法へ変更した。また、2日ドックでは口腔内健診が廃止となったが歯周病リスク検査を導入し、切れ目ない歯科への取り組みを行う事で充実したコース内容を維持している。上記以外にも豊富なオプション検査で、より精度の高い検査を実施している。

また、受診当日に医師が検査結果の説明を行い、専門職（保健師・看護師・管理栄養士・運動指導士）による生活習慣改善のための健康支援サービスを併せて実施している。

令和5年度の間人間ドック受診者数は29,582人であった。

(1)人間ドック

①1日人間ドック

1) 標準コース

日本人間ドック学会が定めた基準検査項目に、肝機能や膵機能検査などの重要な検査項目を追加して内容の充実を図っている。

2) 消化器コース

1日ドック標準コースの検査項目に、大腸内視鏡（S状結腸）検査や上部消化管内視鏡検査、胃がんに進行しやすいといわれる萎縮性胃炎の程度を調べるペプシノゲン検査と胃炎や胃潰瘍・十二指腸潰瘍の原因となるヘリコバクター・ピロリ検査など消化器系の検査を追加し、より充実した内容となっている。

3) レディースコース

1日ドック標準コースに加え、女性特有の疾患の検査（子宮頸部がん検査、HPV-DNA検査、経膈超音波、乳房・甲状腺超音波、マンモグラフィ）を専門的に行うコースである。婦人科医をはじめとした専門スタッフを配置して疾病の早期発見と予防に努めている。

②2日人間ドック

1) 総合コース

1日人間ドック標準コースの検査項目に大腸内視鏡（S状結腸）検査、負荷心電図や糖負荷試験のほか、体力測定、視野検査、体組成測定、歯周病リスク検査を実施している。また個人のニーズに合ったオプション検査（全大腸内視鏡検査・頭部MRI+MRA検査・子宮頸部細胞診・乳房超音波・甲状腺超音波等）も選択でき、充実した内容を実施する総合的な人間ドックである。

2) 総合+胸部CTコース

2日人間ドック総合コースの検査項目に胸部CT検査を標準項目として加え実施している。肺がんの早期発見を目的とし、検査精度の高い胸部CT検査をオプション設定ではなくコースに含み、また価格設定を安価にし受診者がより選びやすくなることを考え新設した。

(2)「優友クラブ」会員制度

平成 19 年度に発足した優友クラブは、市町村や健康保険組合などからの受診料金の助成を受けずに全額自己負担でご利用の方を対象とし、人間ドックを定期的を受診することにより、自己の健康状態の把握と健康維持増進を図っていただくことを目的としている。「優友クラブ」の名称には会員の健康管理に対して、当センターが優れた友でありたいという願いがこめられている。入会後は人間ドックを会員料金で利用できるほか、当センターが発行する健康情報誌などの提供を受けることができる。

会員数 1,426 人 (令和 6 年 3 月末)

(3)シニアドック

お住まいの市町村やお勤め先の健康保険などからの補助等がない 64 歳以上の方を対象に、年齢に合った検査項目の人間ドックを受診しやすい料金で実施し、シニア層の健康づくりを支援している。

期 間 募集は令和 5 年 12 月～令和 6 年 3 月末、実施期間は令和 6 年 2 月～5 月末

内 容 1 日・2 日人間ドック

対 象 者 64 歳以上の方

(4)赤十字ひまわりドック

赤十字の福祉事業の一環として、体の不自由な方を対象に受診しやすい料金を設定し、ご本人と付き添いの方がともに毎日を健康に過ごしていただくことを目的に実施している。

期 間 令和 6 年 2～3 月 (月～金曜日)

内 容 1 日人間ドック

対 象 者 身体障害者手帳 (障害等級 1 級～4 級)、療育手帳をお持ちの方、およびその付き添いの方 (ただし、市町村やお勤め先の健康保険、団体などからの補助を受けない方)

(5)けんこう応援ドック(単年度事業)

熊本県民の皆さんに人間ドックを受診しやすい料金で心身をチェックしていただき健康をサポートすることを目的に実施している。

期 間 募集は令和 5 年 12 月 21 日～、実施期間は令和 6 年 1 月～3 月

内 容 1 日・2 日人間ドック

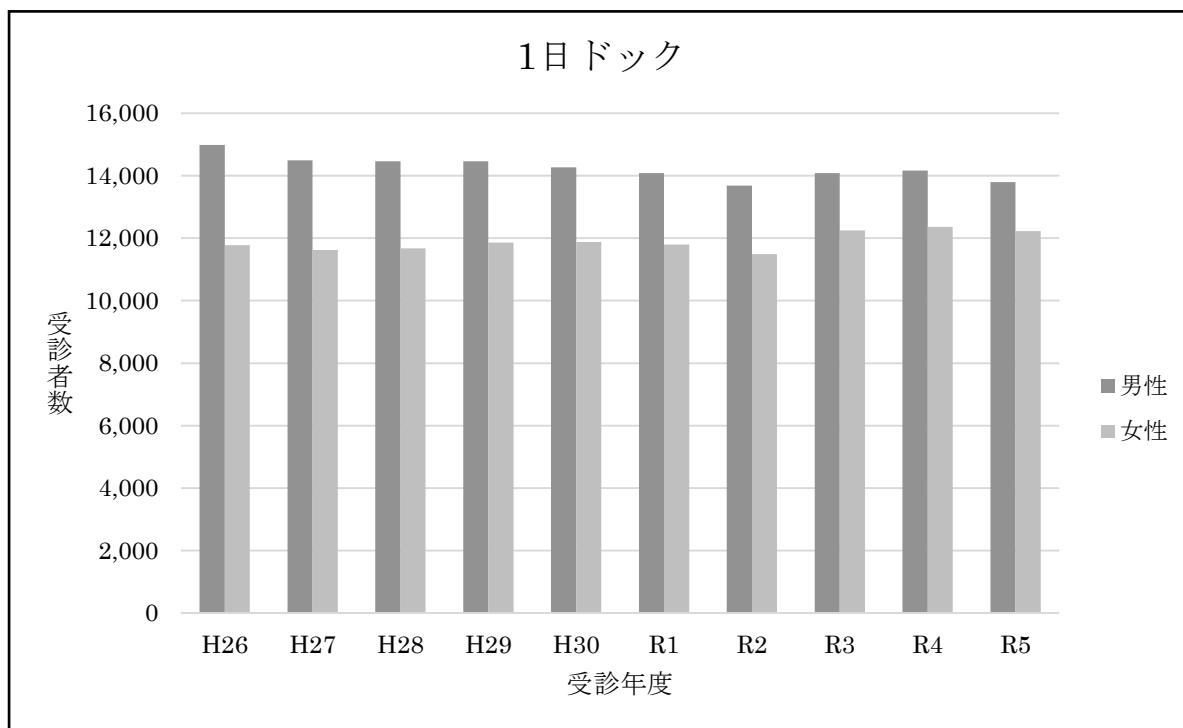
対 象 者 熊本県内在住、または県内勤務で、どこからも人間ドック料金補助がない 63 歳以下の方

<成 果>

(1)ドック受診者数推移【性別】(過去 10 年間)

①1 日人間ドック

1 日人間ドック受診者数は、26,026 人（男性 13,801 人、女性 12,225 人）、前年比 499 人の減少であった。

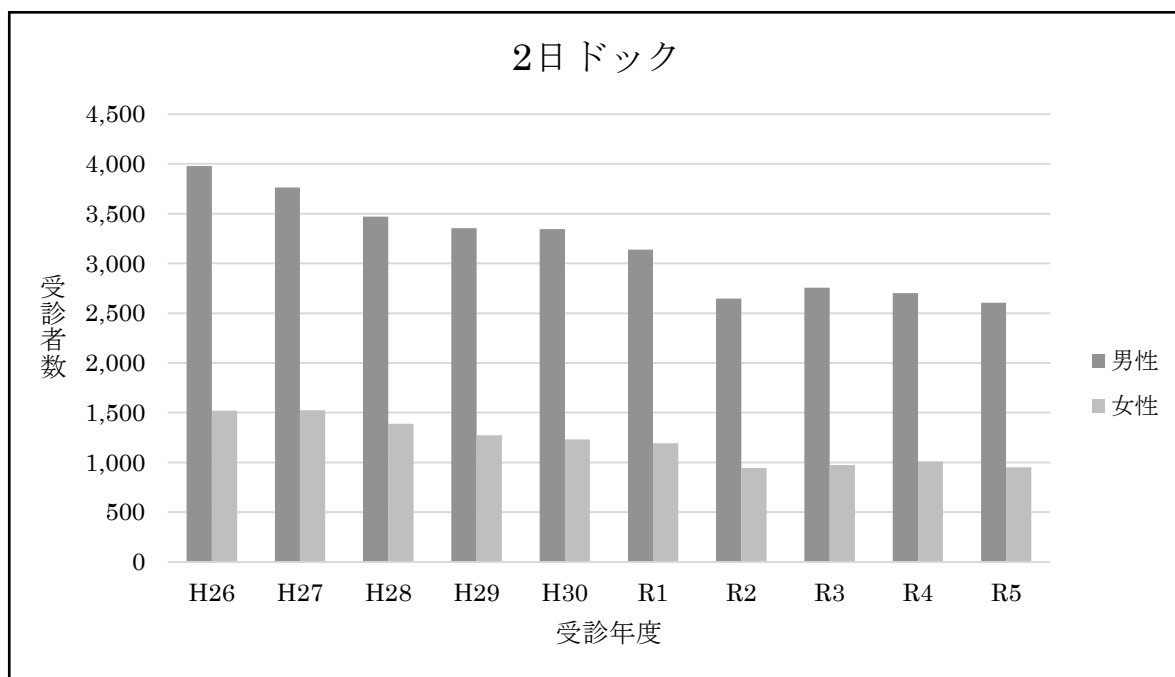


(人)

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
男性	14,985	14,496	14,459	14,461	14,270	14,080	13,681	14,084	14,162	13,801
女性	11,779	11,626	11,678	11,857	11,884	11,803	11,493	12,246	12,363	12,225
合計	26,764	26,122	26,137	26,318	26,154	25,883	25,174	26,330	26,525	26,026

②2日人間ドック

2日人間ドック受診者は、3,556人（男性2,606人、女性950人）、前年比153人の減少であった。



(人)

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
男性	3,980	3,764	3,471	3,356	3,344	3,139	2,646	2,757	2,701	2,606
女性	1,522	1,524	1,388	1,272	1,231	1,194	944	973	1,008	950
合計	5,502	5,288	4,859	4,628	4,575	4,333	3,590	3,730	3,709	3,556

(2)ドック受診者数内訳<年齢別>

① 日人間ドック

(人)

	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～
男性	55	1,337	3,334	4,219	3,299	1,349	208
女性	50	1,193	3,320	4,038	2,600	917	107
合計	105	2,530	6,654	8,257	5,899	2,266	315

② 日人間ドック

(人)

	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～
男性	5	113	494	735	657	485	117
女性		39	133	252	264	214	48
合計	5	152	627	987	921	699	165

(3)ドック受診者数内訳<コース別>

① 日人間ドック

(人)

標準コース	消化器コース	レディースコース
20,539	2,853	2,131
シニアドック	ひまわりドック	
479	24	

② 日人間ドック

(人)

総合コース	総合+胸部CTコース	シニアドック
2,352	868	336

(4)新規・再来受診者数<個人・団体別>

① 日人間ドック

(人)

	新規		再来		計
個人	129	18.6%	693	81.4%	693
団体	2,849	11.2%	25,333	88.8%	25,333
合計	2,978	11.4%	26,026	88.6%	26,026

② 日人間ドック

(人)

	新規		再来		計
個人	42	16.1%	219	83.9%	261
団体	501	15.2%	2,794	84.8%	3,295
合計	543	15.3%	3,013	84.7%	3,556

3. 健診事業

<概要>

健診事業は、施設内健診と検診車で移動して実施する施設外健診に分けられる。

施設内健診では主として、協会けんぽ管掌健康保険加入者を対象とした一般健診、労働安全衛生法に基づく事業所健診、受診券を利用した特定健康診査などを行う。

施設外健診では、上記に加え、県内を中心とした地域へ出向く住民健診や学校検診などを実施した。

<動向>

令和5年度は健診事業において新型コロナウイルスの5類へ移行に伴う対応に変更したものの受付時間の細分化・ICTの導入などにより、快適な受診環境を整えている。

施設内健診においては、人間ドック事業として実施していた協会けんぽ付加健診を令和5年度より健診事業にて実施するよう運用変更を行った。また、ICT導入の一環として携帯電話のメッセージ機能を活用した日程通知に注意事項を記載した事で来所までの案内がより分かりやすく、来所後スムーズに検査へご案内できるようになった。また、受付時間の細分化の検証を重ね、時間当たりの人数を調整したことにより滞在時間の短縮や混雑の軽減となり受診者のみならず職員にも良い効果をもたらす結果となった。

その他に、多様性のある社会への対応に向けて令和4年11月より健診受診用として個室の更衣室を新たに新設し、受診者からも好評を得ている。

施設外健診において、新型コロナウイルスが5類に移行し実績・受診率共に回復を期待したが住民健診では住民の高齢化が進み受診者数は減少傾向にある。ICT導入の一環として一部の団体にweb予約の導入を行い、受付時間の細分化やインターバルをとる事でより効率的な受診環境を提供可能となり対応団体も増えている。また、令和4年度より施設外でも施設内健診システムの遠隔操作による受付業務の試験運用を開始し健診スタッフの時間外の削減など導入の効果を得ることが出来た。今後は実施団体を拡大し更なる作業効率化の向上を目指している。

<成果>

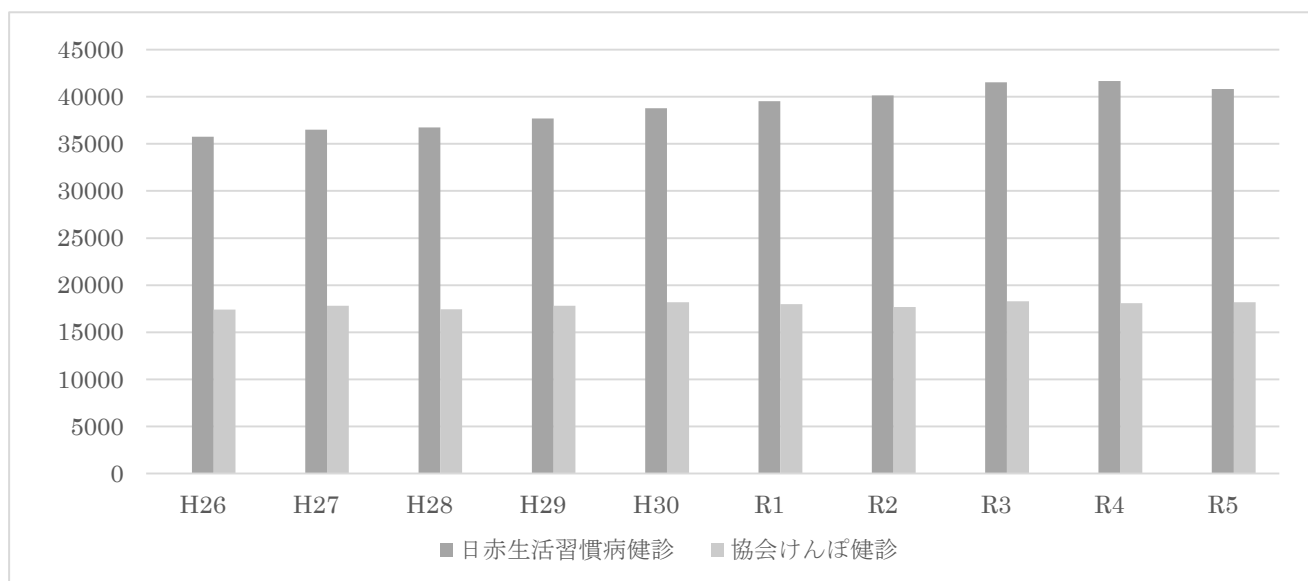
令和5年度の施設内健診は総計で40,364人を実施した。

住民健診では、主に熊本市の特定健診とがん検診を受入れている。事業所においては、協会けんぽ管掌健康保険生活習慣病予防健診（以下「協会けんぽ健診」という。）、付加健診と生活習慣病健診などを受入れているが、とくに35歳未満の方の定期検診については、各事業所担当者と調整をはかり、その内容の充実に力を入れている。

施設外健診では、県下の地域、職域を巡回し、総計で延べ76,094人を実施した。

施設内健診同様、事業所については、35歳未満の方の定期検診の内容充実に力を入れ、生活習慣病健診へと誘導を図った。

(1)健康診断受診者数推移(過去10年間)



	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
日赤生活習慣病健診	35,749	36,505	36,739	37,683	38,767	39,512	40,132	41,538	41,668	40,818
協会けんぽ健診	17,399	17,815	17,439	17,826	18,178	17,991	17,693	18,296	18,076	18,198

(協会けんぽ健診受診者数について、R5年度より付加健診受診者数を加えていること。)

(2)施設内健診

①協会けんぽ健診

<概要>

協会けんぽ管掌健康保険被保険者の生活習慣病早期発見及び健康管理に対する意識向上を図り、健康増進に役立てることを目的に実施している。

協会けんぽ健診の特徴としては、一般健診から付加健診、乳がん・子宮頸がん検診、肝炎ウイルス検査であり、さらに全国健康保険協会の保健師による特定保健指導の個別相談や集団学習を無料で実施するなど総合的な健診である。また、協会けんぽ健診以外でも、検査項目が充実した日赤生活習慣病視力聴力健康診断を事業所健診として実施している。

協会けんぽ管掌健康保険加入者健診の実績数

(人)

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
生活習慣病予防健診 (施設内健診)	15,377	15,370	14,770
〃 (施設外健診)	2,404	2,244	2,173
付加健診			769
子宮頸がん検診 (単独検診)	515	461	486

1)生活習慣病予防健診

35歳以上75歳未満（当該年度75歳に達する方については誕生日の前日まで）の被保険者を対象とする。

2)付加健診

対象年度中に40歳・50歳になる被保険者を対象とする。

40歳とは、昭和58年4月2日～昭和59年4月1日に生まれた方

50歳とは、昭和48年4月2日～昭和49年4月1日に生まれた方

3)乳がん・子宮頸がん検診

1)乳がん・子宮頸がん検診

一般健診を受診する方で当該年度において、40歳以上の偶数年齢に達する女性被保険者を対象とする。

2)子宮頸がん検診（単独検診）

当該年度において、20歳以上40歳未満の偶数年齢に達する女性被保険者を対象とする。

②労働安全衛生法に基づく事業所健診

協会けんぽ健診対象外の方について、労働安全衛生法で定められた項目に独自の検査項目を追加した日赤特定健康診断総合コース、日赤特定健康診断基本コース、日赤生活習慣病視力聴力健康診断を事業所健診として実施している。

③特定健康診査

<概要>

平成20年4月から国の医療制度改革により、生活習慣病を改善し医療費適正化を図るためメタボリックシンドロームに着目した特定健康診査・特定保健指導が医療保険者に義務づけられた。当センターは人間ドック学会や全国労働衛生団体連合会等との集合契約に参加し、令和5年度は特定健康診査（集合契約）を1,334人実施した。

「メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）」に着目した保健指導の対象者となるかどうかを判断するための健診であり、40歳から74歳までの公的医療保険加入者全員を対象としている。

<特定健康診査項目>

質問票	服薬歴や喫煙習慣など22項目
身体計測	身長・体重・BMI・腹囲測定
理学的診察	
血圧測定	
血液検査	脂質検査（中性脂肪・HDL-C・LDL-C） 血糖検査（空腹時血糖またはHbA1c） 肝機能検査（ γ -GTP・ALT(GPT)・AST(GOT))
尿検査	尿糖・尿蛋白

<詳細健診項目> 医師の判断により実施する項目である。

貧血検査	赤血球数・血色素量・ヘマトクリット値
心電図検査	12誘導心電図
眼底検査	キースワグナー分類
腎機能検査	血清クレアチニン、推算 GFR 値

④セレクト健診

お客様の多様化するニーズに対応するため、希望の項目のみを単項目で受診できるよう平成 26 年 11 月から実施している。令和 2 年度からは受診可能日を拡大し、より受診しやすい環境を整備した。令和 6 年度からは体組成測定を実施予定。

<セレクト健診検査項目一覧>

検 査 項 目	
頭部 MRI + MRA	マンモグラフィ + 乳房超音波
胸部 CT	マンモグラフィ
甲状腺超音波 + 血液	乳房超音波
腹部超音波	子宮頸部細胞診
内臓脂肪 CT	子宮頸部細胞診 + HPV
頸動脈超音波	経膈超音波
骨密度検査	

(3)施設外健診

①職域健診

職域健診は、職場で働く人が健康で生き生きと働けるように健康状態を継続的に把握し、健康を保持、増進させ生活習慣病を予防することが目的である。また、職場環境におけるメンタルヘルス対策、メタボ対策などの指導も義務づけられるようになった。

「高齢者の医療の確保に関する法律」により医療保険者に義務づけられている特定健康診査及び行政指導による特殊健康診断（作業健診）、情報機器（VDT）健康診断、更に事業所が独自で実施するがん検診（大腸がん、胃がん、乳がん、子宮頸がん、腹部超音波）を実施している。

全国労働衛生団体連合会が実施している「総合精度管理事業」にも積極的に参加し、労働衛生サービス機能評価も受け、精度の高い信頼できるデータ提供に努力している。

平成 27 年 12 月から施行のストレスチェック制度は、労働者のストレスの状況について定期的に検査を行い、自らのストレスの状況について気付きを促し、個人のメンタルヘルス不調のリスクを低減させるとともに、検査結果を集团的に分析し、職場環境の改善につなげる制度である。従業員 50 名以上の事業所に対し実施が義務づけられ、当センターにおいても、おもに 50 名以上の事業所を対象に 45 事業所実施した。

②地域健診

地域健診は、特定健康診査と熊本県後期高齢者医療広域連合条例に基づく後期高齢者健康診査を実施している。

がん検診等については、市町村に努力義務とされている「健康増進法」に基づき実施している。市町村によっては平成 21 年度からがん検診推進事業として子宮頸がん及び乳がん検診、更に平成 23 年度からは大腸がん検診の無料クーポン券が配付され、更なる受診率やがん発見率の向上に取り組んだ。

当センターも、特定健診とがん検診をできる限り同日に実施し、また、受診できなかった方を後日実施できるよう日程調整するなどの取り組みで受診率向上に努めている。

<地域健診検査項目一覧>

健 診 項 目
胃部 X 線
胸部 X 線
喀痰細胞診
便潜血検査（2 日法）
子宮頸部細胞診
乳房超音波
マンモグラフィ
腹部超音波
腫瘍マーカー（PSA）
甲状腺超音波
肝炎ウイルス検査（HBs 抗原・HCV 抗体）
骨粗鬆症検診

③その他の検診

学校検診

<概要>

一般財団法人熊本県健康管理協会の委託により学校検診を実施した。学校における健康診断は、学校保健法により結核の有無、心臓の疾患及び異常の有無を検査する。熊本県下の小学校1校、中学校3校、高等学校4校で行った。

<実施状況>

学校名	人数	
	心臓検査	胸部X線
文徳高校	348	348
文徳中学校	13	-
熊本中央高校	273	-
熊本学園大附属高校	400	-
熊本学園大附属中学校	68	-
熊本国府高校	494	-
熊大附属小学校	108	-
熊大附属中学校	159	-
計	1,863	348

<心電図検査・胸部X線検査>

実施方法

- 1) 4月中旬から5月下旬までに各学校において一次検査（標準12誘導心電図）を実施
- 2) 検査会場にて直ちに専門医のもとで一次スクリーニングを実施。必要者には心音聴診を行ったうえで精密検査者を決定
- 3) 胸部X線検査撮影（文徳高校のみ）
- 4) 精密検査は、当センター外来で実施
- 5) 精密検査終了後、結果と管理区分表を学校へ送付

4. 健康支援事業

<概要>

包括的な健康支援を目的とし、「健康づくりサイクル」見（診）る（人間ドック・健康診断）→知る（再検査・精密検査）→気づく（保健相談）→変わる（生活改善）を様々な角度からサポートしている。また、保健師・管理栄養士・運動指導士による特定保健指導を中心とした保健指導事業の他、産業保健サポートサービス、健康セミナー等のプログラムの企画・実施、さらに、テレビ・新聞等マスメディアにも対応し、広報活動も行っている。他にもホームページ上にて、運動実技やヘルシーレシピ紹介等の動画配信も行っている。

(1) 特定保健指導

高齢者の医療の確保に関する法律により、医療保険者に対して義務づけられた「特定健康診査・特定保健指導」の委託を受け、厚生労働省の「標準的な健診・保健指導プログラム」に基づき支援を行っている。

<プログラム>

① 動機づけ支援

初回面談時に健診結果を用いながら現在の健康状態を確認し、今後の生活習慣病のリスクや食事・運動などの生活改善のポイントのアドバイスを行い、具体的な行動目標を設定する。3ヵ月後に取り組みの成果（体格の変化・生活習慣改善状況）について、電話等で確認し支援を行っている。

② 積極的支援

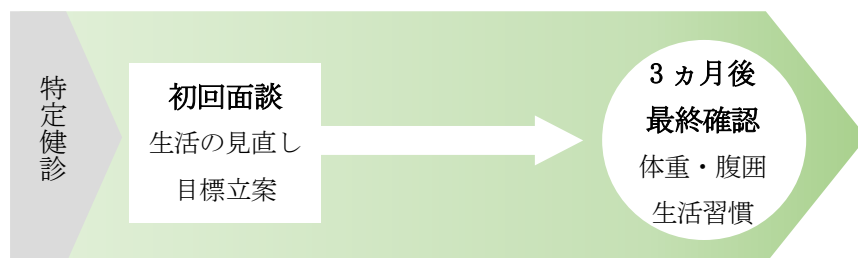
動機付け支援同様、初回面談時に行動目標を設定し、体重の変動や生活習慣改善状況、健康意識を確認しながら3ヵ月間、電話やメールで継続的に支援を行っている。

<初回面談方法>

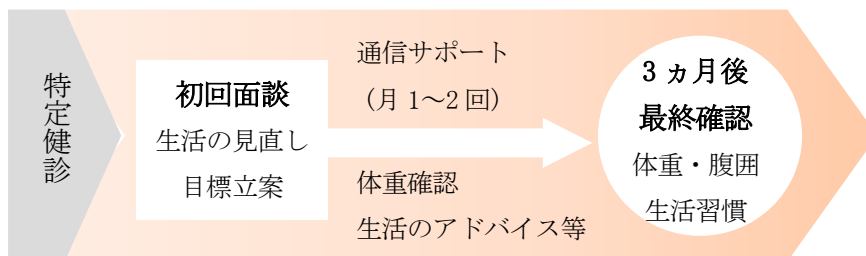
対面または遠隔面談

<スケジュール>

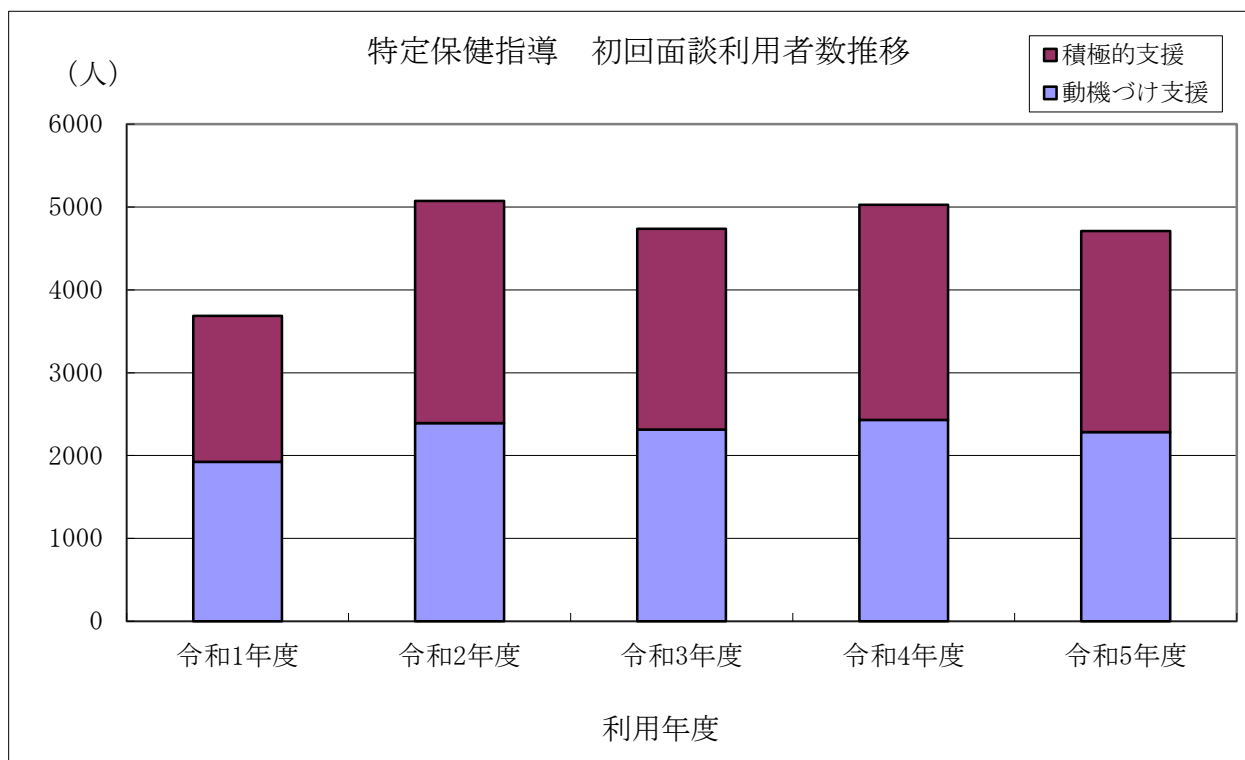
【動機づけ支援】



【積極的支援】



<初回面談利用者数推移>



	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
動機づけ支援	1,924	2,391	2,313	2,432	2,282
積極的支援	1,764	2,682	2,424	2,596	2,430

<実施成果 令和4年度実績>

		動機づけ支援	積極的支援
初回面談実施者数		2,432	2,596
終了者数 (%)		2,276 (93.6)	2,326 (89.6)
体格	体重：3 kg以上減量者数 (%)	156 (6.9)	287 (12.3)
	腹囲：3 cm以上減量者数 (%)	282 (12.4)	442 (19.0)
生活習慣	食生活：改善者数 (%)	1,771 (77.8)	2,048 (88.0)
	身体活動：改善者数 (%)	1,438 (63.2)	1,596 (68.6)
	喫煙：喫煙者数	96	1,053
	禁煙者数 (%)	3 (3.1)	42 (4.0)

(2)産業保健サポートサービス

働く人及び企業の安全と健康を守り生き生きと働くことができることを目的に、産業医、保健師が連携し産業保健サポートサービスを実施している。契約数は 48 団体に衛生教育や多種の面談など契約団体に寄り添った内容を提供している。(令和 6 年 3 月末現在)

<活動一例>

プレミアムサポートプラン (産業医派遣 12 回以上/年契約)

- ・A 事業所 : 産業医 : 1 日 12 回派遣、WEB 産業医面談 12 回
- ・B 事業所 : 産業医 : 半日 12 回、保健師 : 半日 5 回派遣

ベーシックサポートプラン (産業医および保健師派遣 12 回以上/年契約)

- ・C 役場 : 産業医 : 半日 3 回、保健師 : 1 日 3 回、半日 6 回派遣、来所型産業医面談 9 回
- ・D 事業所 : 産業医 : 半日 6 回、保健師 : 1 日 2 回、半日 6 回派遣、来所型産業医面談 4 回

<訪問・面談回数>

(回)

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
産業医派遣	194	208	239	216
保健師派遣	103	104	116	119
来所型 産業医面談	65	96	68	76
WEB 産業医面談	1	6	8	12

産業医・保健師訪問活動内容

- 1) 健康診断結果有所見者の保健指導
- 2) 長時間労働者・高ストレス者面接
- 3) 休職・復職面談
- 4) 治療と職業生活の両立支援面談 (がん・慢性疾患など)
- 5) 職場巡視
- 6) 安全衛生委員会への出席 (報告)
- 7) 衛生教育
- 8) 産業保健体制整備・年間計画策定への助言
- 9) 事業主、人事担当者への意見具申
- 10) その他

産業医管理業務内容

- 1) 健康診断後の就労判定および要指導対象者の選定
- 2) 精密検査・治療結果の把握
- 3) 長時間労働者面接後の意見書の策定
- 4) ストレスチェック後の医師面接要否の判断および集団分析結果確認
- 5) ストレスチェック面接後の意見書の策定
- 6) 不調者に関する診療情報提供書の策定および復職時の産業医意見書の策定
- 7) 健康管理状況・作業内容・作業環境等の情報をつきあわせて原因の検討、対策の立案
- 8) 労働基準監督署への報告書類の記名・捺印
- 9) 依頼事項や相談への対応
- 10) その他

(3) 健診結果説明会(事後指導)

事業所及び市町村との契約で、健診実施後に保健師が訪問し健診結果説明会を実施している。受診者自身が健診結果から自分の健康状態を理解し生活習慣を振り返ることで、今後の生活における改善点を見出すことができるようサポートを行っている。

<内 容> (事後指導実施団体 8 団体)

- 1) 健診結果(健診データ、判定、所見など)の見方について
- 2) 生活習慣(食生活、運動、飲酒、喫煙など)改善のアドバイス
- 3) 要精密検査、要治療者へ医療機関受診を勧奨
- 4) 必要な精密検査の説明(検査種類、方法など)
- 5) 健康度評価票の提供 (当施設受診分のみ)

(4)健康セミナー・健康講演会(職員派遣)

<概要>

健康セミナーでは、生活習慣病に関する正しい理解と予防・改善に向けた効果的な方法や健診受診の重要性を学び、健康づくりのきっかけとなる内容を実施している。

健康講演会(職員派遣)では各団体の依頼に応じ、保健師・管理栄養士・運動指導士の派遣を行い、講話や実技を交えて情報を提供している。

<動向・成果>

健康セミナーは、企画立案から実施・評価まで年間通して5団体を対象に計8回開催した(下表のとおり)。3団体は、感染症予防対策を徹底し、対面型のセミナーを実施。1団体は初の試みで、ハイブリッド形式、もう1団体はオンデマンド配信によるセミナーを実施した。

セミナー内容	回数	延べ人数
生活習慣病予防改善セミナー	4	148
健康運動セミナー	2	91
重症化予防セミナー(ハイブリッド形式)	1	13
メンタルヘルスセミナー(動画配信)	1	347 (アクセス数)
計	8	599

健康講演会(職員派遣)は11団体18回の実施であった。昨年より派遣依頼が増加傾向で感染症前に戻りつつある。肩こり腰痛予防、疲労回復といった内容の要望が多かった。

	内容	回数	派遣職員
1	高齢者の運動	2	運動指導士
2	生活習慣病予防	1	管理栄養士 運動指導士
3	運動講話・体力測定	2	運動指導士
4	肩こり腰痛対策	4	運動指導士
5	ロコモ対策	1	運動指導士
6	疲労回復ストレッチ	4	運動指導士
7	太らないための食事法	1	管理栄養士
8	日赤健康葉膳を食しながら健康的においしく食べるコツ	1	管理栄養士
9	パフォーマンスを上げる睡眠マネジメント	1	保健師
10	メンタルヘルス講座	1	保健師

(5) マッサージルーム

<概要>

当センターでは、検査の待ち時間などに利用できるマッサージルームを設置している。専任のマッサージ師1名を配置し、「20分」と「40分」の2コースを実施。利用者には検査の合間にゆっくりした時間を過ごしていただいている。

また2日人間ドック受診者（センター泊限定）に対して、無料のマッサージサービスを行っている。足裏、肩、手の中から1つを選択し、10分程度のサービスが受けられる。1日目の検査終了後から夕食までの時間帯に提供しており、宿泊者の約3割の方が利用。

<動向・課題>

有料マッサージは、人間ドックまたは所内健診を受診時にのみ利用いただいているが、ドックの食後から午後の検査開始までに予約希望が集中する。スタッフ1名体制であるため予約をお断りするケースも多々発生している状況である。少しでも多くの方にリラクスの場を提供するべく、様々な方法を検討していきたい。

センター泊の無料マッサージサービスは2年目を迎え、利用者からは、「明日の健診も頑張れそう」、「短時間でも心地良かった」、「なかなか時間が取れないので有難いサービス」など昨年度に引き続き好評であるので今後も2日コース（センター泊）受診者へのサービス提供を継続する。

<マッサージルーム利用状況>（延べ人数）

	R5					R6							
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総数
20分コース	14	16	12	21	22	10	13	20	22	17	27	21	215
40分コース	20	16	30	31	23	14	17	29	14	23	20	16	253

(6) 広報・マスメディアを通しての健康情報提供

<概要>

情報提供として、テレビ、新聞、情報誌などのメディア取材や原稿の対応をしている。

<動向>

健康情報提供については昨年度に引き続き、動画を中心に新聞・情報誌などのメディア出演や原稿協力を積極的に行い、人間ドックや健診当日だけでなく、広く情報の発信を行った。

<内容>

	保健師	管理栄養士	運動指導士
テレビ取材協力 (1回)		<ul style="list-style-type: none"> 枝豆の栄養価について 	
原稿協力 (12回)	<ul style="list-style-type: none"> 特定保健指導で目指せ「脱メタボ！」 	<ul style="list-style-type: none"> 夜遅い食事はご用心!? 手づくり弁当でバランス食 年末年始で疲れた胃をメンテナンス♪ お酒とのちょうどイイ関係～正しく、賢く、美味しく～ 高齢者の健康管理(食事) 見えない油にご用心～知らないうちに食べているかも?～ 夏こそ体を温める!～夏バテの原因は夏冷えだった!?～ 	<ul style="list-style-type: none"> 脱猫背で美しい姿勢 高齢者のための効果的な有酸素運動について 自宅で実践できるフレイル予防 高齢者の健康管理(運動)
動画配信 (公式YouTube)		栄養動画 (8本) <ul style="list-style-type: none"> 日赤健康薬膳レシピ 	運動動画 (2本) <ul style="list-style-type: none"> ダンベル体操 ストレッチ (次年度配信予定)

5. 外来事業

<概要>

当センターでは、人間ドックや健康診断受診後に必要な再検査や精密検査を提供する目的で外来診療を実施している。診療科目は主に、糖代謝や脂質代謝を診療する「再検査外来」・「代謝外来」、消化管や肝機能などの「消化器外来」、肺や肺機能などを診療する「呼吸器外来」を設定し、重大な病気の発症予防や重症化予防のために、生活習慣改善や定期的なフォローによる健康支援を提供している。また、疾病の鑑別診断や重症化予防だけではなく、肺がんの発症予防のために禁煙を支援する「禁煙外来」なども行い、疾病の発症予防を目的とした予防医療に注力している。

<動向>

平成10年6月から、人間ドックや各種健診後の異常者をフォローする目的で外来診療を実施している。当センターの外来診療は、薬物治療が必要となる前に生活習慣を変えることで疾病の発症予防と重症化予防を図ることが大きな目的であり、診療には、医師、看護師だけでなく、保健師、管理栄養士、運動指導士を配置し、日常生活における食事、運動などの生活習慣の改善支援を専門スタッフが行えるよう配慮している。また、人間ドック受診後や健診受診後のフォローと鑑別診断を中心に外来診療を提供するため、これらの健診受診者を優先する完全予約制で診療を提供している。

平成24年10月から、がんや様々な生活習慣病の発症因子、増悪因子となる「喫煙」についても禁煙治療（禁煙外来）を実施し、平成25年度からは熊本赤十字病院で治療上、禁煙が必要と判断される方に対し、連携して「禁煙治療」を実施している。

平成27年度には、骨粗鬆症の予防にも取り組み、人間ドックや健康診断の骨密度検査で要再検査や要精密検査となった方への診療を行い、治療及び他の医療機関との連携等、健康支援も提供している。

令和2年度からは新型コロナウイルス感染防止対策として慢性疾患を有する定期受診者に対し、電話での診療及び処方を行うことが可能となり、当センターでも迅速に対応し感染防止に努めた。

令和3年度には当センターの人間ドック・健康診断を受診し、「がんの疑いで精査中」または「主治医でがんの診断・治療中・治療後」等の方で、健康や生活に不安を抱えている方を対象に、より納得して治療を受け、生活していただくためのご支援として「がんよろず相談室」を設け、ご自身のニーズにあったリソースの紹介（がん相談支援センター、行政窓口、ピアサポート等）を行っている。

令和4年度にはマイナンバーカードによるオンライン資格確認システムを導入し、診療情報を取得しながらより質の高い医療の提供と業務の効率化に取り組んでいる。

令和5年度は高血圧症や糖尿病の予防として、食事改善ができるように外来栄養指導の強化に努め、受診者により満足いただけるよう診療を行っている。

●保険診療委員会開催

- 第1回 令和5年 6月22日（木）15:30～
- 第2回 令和5年 8月28日（月）15:30～
- 第3回 令和5年11月24日（金）15:30～
- 第4回 令和6年 3月22日（金）15:30～

<成 果>

外来診療の実績は下記のとおり（保険診療・自由診療）

外来診療実績（初・再診別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診	24	29	27	15	34	33	19	20	22	22	26	19	290
再診	409	421	488	458	450	482	534	479	537	438	451	521	5668
その他	9	5	5	7	6	8	11	3	5	8	4	10	81
計	433	450	515	473	484	515	553	499	559	460	477	540	5,958
院外処方	182	170	221	193	179	199	215	195	234	204	200	216	2,408

診療科目別実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
消化器	45	40	51	39	65	53	53	57	61	50	55	50	619
代謝	109	80	120	111	105	111	127	118	131	122	115	111	1,360
再検	87	108	148	110	92	121	122	100	132	88	102	141	1,351
呼吸器	180	206	182	202	207	215	236	215	218	187	183	217	2,448
乳腺	0	4	2	0	1	2	1	0	2	0	1	0	13
禁煙	4	0	2	0	0	2	4	1	6	6	9	10	44
一般	6	10	7	11	14	7	10	8	9	7	12	10	111
内科・その他	2	1	3	0	0	4	0	0	0	0	0	1	11
学校検診二次	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	433	450	515	473	484	515	553	499	559	460	477	540	5,958

<課 題>

人間ドックや健診で見つかる軽度の異常を放置することは、せっかく発見された病気の兆候を放置し、医療機関で治療が必要なまでに病気を重症化してしまうことを意味する。予防医療の役割は、病気を早期発見するだけではなく、人間ドックや健診で軽度の異常が見つかった方に対して、積極的な生活習慣改善の支援を行い、病気にならないよう医療サービスを提供することと考える。当センターで行う外来診療の大きな目的は、何らかの異常が発見された方に対して必要な検査を提供するとともに、生活習慣改善による病気の発症や重症化を防ぐための支援を提供すること、また、疾患が疑われ、精密検査や治療が必要な方は専門の医療機関や地域の医療機関に連携し、適切な地域医療サービスを受療してもらうことを目的としている。

今後も人間ドックや健診で異常が見つかった方が、より受診しやすい外来になるよう、地域の医療機関と連携した外来機能の充実に努める。

各部門この一年

1. 放射線診断部

放射線課

<概要>

放射線課には、診療放射線技師 22 名、メディカルエイド 6 名、事務職 4 名が在籍しており、胸部 X 線検査、胃部 X 線検査、マンモグラフィ検査、胸部 C T 検査、内臓脂肪 C T 検査、頭部 MR I + MR A 検査、骨密度検査を担っている。

<動向>

令和 5 年 12 月に、胸部 X 線検診車(以下：新胸部車)を更新した。胸部 X 線撮影装置は、富士フィルムヘルスケアの RadnexEX、富士フィルムメディカルの CALNEO Smart S77 を導入した。

今回の新胸部車では、昇降口の段差と階段幅を改善し安全に乗降できるように配慮した。さらに受診者用更衣室を個室にしたことで受診者のプライバシーが確保された。従来の胸部 X 線撮影装置は、検査中に踏み台から転倒するリスクがあったが、撮影台と X 線管球が連動する装置を導入したことで安全に検査を行うことができるようになった。新胸部車は 2024 年度より本格稼働し、各巡回先での活躍が期待される。

また、事業推進課と協力し骨密度検査を新たな団体で実施することができた。その結果、111 名が受診された。今後もこのような事業拡大を進め、健康寿命の延伸を目指したい。

センターの基本方針である教育研修機関の活動として、熊本大学医学部保健学科放射線技術科学専攻の非常勤講師として 2 名の技師が講義を行い、臨床実習では臨床准教授として 10 名の技師が指導にあたり次世代の人材育成へ尽力している。

<成果>

令和 5 年度の実績は、胸部 X 線検査約 99,000 件、胃部 X 線検査約 28,000 件、マンモグラフィ検査約 26,000 件、胸部 C T 検査約 4,700 件、内臓脂肪 C T 検査約 800 件、頭部 MR I + MR A 検査約 2,400 件、骨密度検査約 7,100 件であった。

<課題>

わが国において肺がんの罹患数は男性第 4 位 (*1) 女性第 3 位 (*1) であるが、死亡数では男性第 1 位 (*2)、女性第 2 位 (*2) であり、肺がんの早期発見が急務である。胸部 X 線検査に加え、胸部 C T 検査を受診することで早期に肺がんを発見・治療することが可能となる。今後胸部 C T 検査の更なる受診勧奨を行いたい。

また、胃がんの罹患数は、男性第 3 位 (*1)、女性第 5 位 (*1) であり、死亡数は、男性第 3 位 (*2)、女性第 5 位 (*2) である。近年、胃がんの死亡数は男女ともに減少傾向にある。胃部 X 線検査は、胃がんの死亡率減少に効果があることが証明されている。令和 5 年度より、胃部 X 線検査において、バリウムにお好みの香料を加え飲み易くする取り組みを開始した。受診者から好評を頂き更に拡大する予定である。

乳がんにおいては、女性の罹患数、第 1 位 (*1) であり、近年急増し続けている。マンモグラフィ検査は羞恥心や痛みを伴う検査である。診療放射線技師の技術向上と受診者に寄り添うことで、検査の負担を減らし早期発見・治療へと繋げていきたい。

さて、人口の急速な高齢化に伴い骨粗鬆症の患者が年々増加しつつあり、その数は1300万人と推測されている。(*3) 要介護者の介護が必要となった主な原因の第3位が骨折・転倒であり、健康寿命を延ばす上で大きな課題である。骨粗鬆症は自覚症状がないまま進行してしまうため、定期的な骨密度検査が推奨される。

一方、近年診療放射線技師の重要な責務となっているのが、機器管理及び被ばく線量の管理である。診療に必要な質の高い画像をより少ない被ばく線量で提供できるよう、第三者機関による精度評価(全衛連、精中機構等)を含め、始業点検や保守管理を徹底して行うことで精度向上に努めている。

*1 2019年時点 *2 2022年時点 国立がん研究センター がん情報サービス

*3 予防と治療ガイドライン 2015年度版 一般財団法人 日本骨粗鬆症学会

2. 検査部

(1) 第一検査課

<概要>

第一検査課の主な業務内容は人間ドックや施設内外の健康診断、外来診療等に関わる検査業務である。検体検査においては血液生化学検査、尿検査、便潜血など年間約 14 万検体を検査している。人間ドックにおいては、採血・体格測定・視力・聴力・腹囲測定・眼底・眼圧・肺機能・安静心電図・負荷心電図・血圧脈波・頸動脈超音波・心臓超音波・視野検査など数多くの検査を実施している。

更に今年度から 2 日人間ドックに新たに歯周病リスク検査を実施している。

また、健康診断においては、採血・体格測定・視力・聴力・腹囲測定・眼底・安静心電図・尿検査などを担当している。その他、外来の採血や情報機器作業（VDT）検診の検査、学校心電図検査といった幅広い検査業務を行なっている。

<動向>

人間ドックでは眼圧計 1 台、令和 6 年度から施設内健診での肺機能検査増加を見越しスパイロメータ 1 台を追加購入した。施設外健診では眼底カメラ 1 台、検体検査では生化学測定装置 1 台、ヘモグロビン A1c 測定装置 2 台、免疫測定装置 2 台を更新し運用の改善、精度の維持・向上に努めた。

また、検査技師としての技術や知識の向上をはかるため例年実施している課内の勉強会は、集合形式に加え、昨年引き続き新型コロナウイルス感染防止のため密を避ける意味から WEB による開催を併用した。

<成果>

今年度の検査課実績としては、2 日人間ドック受診者が約 3,500 人、1 日人間ドック受診者が約 26,000 人、あわせて約 29,500 人の方々に対して生理検査が 15 項目と血液検査等が 30 数項目の検査を実施した。また、健康診断においては、施設内健診受診者が約 40,000 人、施設外健診受診者は約 76,000 人、合計約 116,000 人の方々に対して、生理検査が約 8 項目、血液検査等が約 20 項目の検査を実施した。その他主な検査として、外来受診者の採血が約 4,000 人、子宮頸部細胞診が約 24,000 人、頸動脈超音波検査が約 4,900 人、血圧脈波検査が約 2,200 人、負荷心電図検査が約 4,000 人、心臓超音波検査約 700 人という実績であった。その他にも学校心電図検査や情報機器作業（VDT）検診を実施している。

<課題>

検査業務については昨年と同様の実績であった。

今年度も昨年につき、新型コロナウイルス 5 類移行後ではあるが、ウイルスに対する受診者、検査スタッフの感染予防対策を講じての検査実施となった。

第一検査課の課題として、現行業務の見直し・改善の実行、新型コロナウイルスで学んだ感染対策の継続等、より良い業務体制の構築に努めるとともに、計画的な機器の更新の実施、時代に沿った検査機器、検査項目の情報収集・導入に努めていくことが必要である。また、若い人材の採用、育成について第二検査課と連携し教育の強化を実施していきたい。さらに、検査部門での精度管理等精度の向上、技術や知識の向上に取り組んでいきたい。

(2)第二検査課

<概要>

臨床検査技師 23 人（男性 7 人・女性 16 人）が在籍しており、超音波検査及び結果データ入力業務を行っている。

◎対象臓器：腹部（肝臓・胆のう・胆管・すい臓・腎臓・脾臓・腹部大動脈）

乳房*・甲状腺*・頸動脈*・膀胱*（* はオプション検査）

◎超音波診断装置使用機種：

Canon 社製（18 台）：Aplio300・400・α-Verifia

PHILIPS 社製（2 台）：Affiniti 70

<動向>

施設内では、南館 4 階超音波検査室にて 7 台の超音波診断装置で人間ドックの腹部超音波検査に対応している（このうち 1 台が頸動脈超音波検査に対応）。また、南館 2 階超音波検査室にて 3 台の診断装置で施設内健診及び外来検査に対応している。施設内においては、すべて診断装置 1 台につき技師 1 人が対応している。

施設外では、8 台の検診車に 9 台の診断装置を搭載し（検診車 8 台のうち 1 台に診断装置を 2 台搭載）、最大 12 人の技師が対応している。

施設外健診において検診車 8 台（診断装置 9 台）すべてが稼動する場合、診断装置 3 台は 1 台につき技師 2 人（主に乳房超音波検査：女性技師）で対応し、6 台は 1 台につき技師 1 人（主に腹部超音波検査）で対応している。

令和 5 年度もパソコン上で所見を管理するペーパーレス化を継続し、画像記録形式は DICOM で行っている。

<成果>

令和 5 年度部位別超音波検査受診者数

	腹部超音波	乳房超音波	甲状腺超音波	膀胱超音波
1 日ドック	26,020 人	8,153 人	3,614 人	481 人
2 日ドック	3,555 人	567 人	541 人	288 人
施設内健診	7,010 人	6,770 人	542 人	
施設外健診	29,923 人	12,448 人	3,828 人	

総数を昨年度と比較すると、腹部超音波は 64 人の減少、乳房超音波は 872 人の減少、甲状腺超音波は 184 人の減少、膀胱超音波検査は 41 人の増加であった。

1 日ドックでは腹部超音波は 500 人の減少、乳房超音波は 168 人の減少、甲状腺超音波は 128 人の減少、膀胱超音波は 5 人の減少、2 日ドックでは腹部超音波は 154 人の減少、乳房超音波は 46 人の減少、甲状腺超音波は 25 人の減少、膀胱超音波は 46 人の増加、施設内健診では腹部超音波は 907 人の増加、乳房超音波は 390 人の減少、甲状腺超音波は 34 人の減少、施設外健診では腹部超音波は 317 人の減少、乳房超音波は 268 人の減少、甲状腺超音波は 3 人の増加だった。

◎日本超音波医学会認定技師

消化器領域 22 人・体表領域 22 人・泌尿器領域 14 人・循環器 1 人（第二検査課のみ）

◎全国労働衛生団体連合会による令和 5 年度腹部超音波精度管理パイロット調査 「評価 A」

<課 題>

第一検査課・第二検査課が、お互いの業務を共有できるよう人材の有効活用を目的に取り組んできた結果、昨年度より各スタッフが色々な部署において協力体制の構築ができた。しかし、スタッフの業務の負担は大きいのでさらなる負担軽減に努めたいと考える。

令和 5 年度も時間外勤務の削減に取り組み、施設内健診では基本的に定時で退社するように、施設外健診では帰社後の処理が済んだら退社するように意識改革に取り組んでいる。次年度も業務内容を検討し、さらなる改革に取り組みたいと考える。

人間ドックにおいては令和 2 年度のペーパーレスへの運用変更と、令和 3 年度からの新健診システム導入により腹部検査の終了時間が早くなった。そのため、オプション検査を午前中に開始できるようになり、待ち時間の短縮につながった。今後も、オプション検査についても受診者を待たせる事なく実施できるような体制を維持したいと考える。

日本人間ドック学会から推奨されている腹部超音波所見のカテゴリー分類に関しては、以前から導入しており現在進行中である。

3. 保健看護部

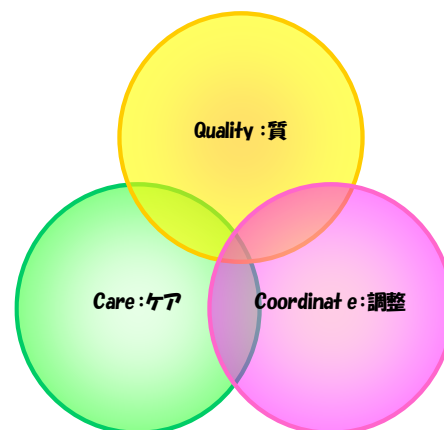
<保健看護部の理念・方針・実践目標>

- ①**保健看護部理念**：私たちは、すべての人の人権を尊重し、グローバルな視点を持ち、赤十字の基本である『人にやさしい思いやりのある心』を持って、保健・看護サービスを提供します。
- ②**保健看護部方針**：①すべての人の健康や生活の質の向上を目指し、継続的な支援を行う。
②保健や看護の専門性を発揮し、事故のない安心で安全な看護サービスを提供する。
③質の高い保健・看護サービスを提供するために自己研鑽に努める。
- ③**実践目標**：単に疾病の早期発見だけではなく、健康を支援するために、常に最高水準の看護サービスが提供できるように、保健指導の技術を磨き、知識を深めることに努めている。そのために、専門職のアプローチとして、「Quality」「Care」「Coordinate」の3つの「QCC」を実践目標としている。また、受診者やスタッフが安心・満足して過ごせるような環境をつくることも目指している。

<Quality> 受診者のQOLの向上・スタッフのQWLの向上・看護の質向上

<Care> 受診者ニーズに応じたケアの提供
生活背景を視野に入れたケアの提供
安全と安楽を目指したケアの提供

<Coordinate> 受診者と適正な医療・社会資源との調整、スタッフ間の調整、地域・職域における保健事業との調整



<保健看護部の組織と業務内容>

保健看護部は、保健看護課・健診保健課・外来看護課・お客様サポート課からなる4課8系の組織である。

- ・保健看護課：人間ドック事業にて保健・看護領域全般に関与し、また健康増進部と連携し特定保健指導等にも取り組んでいる。
- ・健診保健課：施設内・施設外の健康診断に関与し、5がん検診や特定健診・生活習慣病健診・特殊健診等に取り組んでいる。
- ・外来看護課：外来看護係では、保険診療外来（消化器、代謝、呼吸器、再検査など）にて人間ドック・健診後のフォローアップ目的で、再検査や精密検査、生活指導を行い、内視鏡看護係では、上部・下部消化管内視鏡検査など、安心・安全な検査が受けられるように支援している。
- ・お客様サポート課：お客様相談係と健康情報係にて受診者サービス及び総合精度管理・医療安全管理（感染管理を含む）の事務局として人間ドック事業・健診事業・外来事業の前方支援・後方支援を行っている。

<教育体制>

教育システムは「赤十字のキャリア開発ラダー」を導入し、看護職個々人がキャリアアップできるよう継続教育のシステムを整備している。平成22年度より健診施設独自の新人・現任集合教育

に取り組み、平成 25 年からは中途採用者の OJT 教育体制の充実を図り、平成 26 年度からは新人、中途採用者や配置換え職員へのメンタルサポート支援を実施している。また平成 23 年度から「管理者ラダー」を導入し、課長（師長）を対象とした日本赤十字社本社の看護管理者教育者研修や九州ブロック赤十字医療施設の看護管理者研修に参加している。また看護協会主催の新人教育研修責任者等研修や認定看護管理者研修等に積極的に参加する等、看護管理の教育にも取り組んでいる。さらに保健看護部内で、主任・係長・課長（師長）に対して同内容で月に 2 回の管理者研修を実施した。内容は「問題解決思考」、「クリティカルシンキング」、「社会的感受性」、「医療と接遇」等である。

<令和 5 年度保健看護部の活動目標と成果>

【活動目標】

1. 看護要員の確保と定着
2. 看護要員の人材育成
3. 質の高い看護サービスの提供

【成果】

看護要員の確保は、育児休暇・育児短時間制度利用者が増加していることや保健看護部の業務が多岐に渡ることから増員せざるを得ない状況にある。今年度も、採用計画どおりにいかず人員不足が続いている。そのためタスクシフト・タスクシェアの体制を強化し、各課の垣根を越えてサポートを行った。

人材育成については、保健看護部の OJT 研修、現任教育のみならず、各課、係で勉強会を計画し、対面での研修を行った。また、熊本赤十字病院主催、熊本県看護協会主催、九州ブロック赤十字施設看護部長会主催の研修へも参加も積極的にを行った。

質の高い看護サービスの提供では、「医療安全管理体制の強化」、「感染対策の強化」、「健康支援サービスの強化」、「精度管理の強化」に取り組んだ。医療安全管理体制の強化については、各部署で緊急時のシミュレーションを行った。保健看護課では、「受診者食堂での気分不良対応」を行い、健診保健課では、「子宮がん検診車ででの転倒時の対応」、「レディースセンターでの急変時対応」を実施した。外来看護課では、「南館 1 階外来での緊急時対応」、「内視鏡室で緊急時対応」を実施した。

新型コロナウイルス感染症が 5 類に変更になったが、受診者来所時の体調チェック等の感染対策を継続して取り組み、職員の濃厚接触者には抗原定性検査を実施継続した。内視鏡看護係では、例年どおり「感染管理」「内視鏡機器の消毒」について勉強会を開催し、週 1 回内視鏡スコープの ATP 検査を継続実施している。

健康支援サービス品質管理の充実では、日本糖尿病療養指導士及び地域版糖尿病療養指導士 24 名が在籍しており糖尿病専門部会のメンバーとして活躍している。熊本県の熊友パスでの連携を強化し、令和 5 年度は約 109 件の連携を行った。タバコ・アルコール専門部会では、新人職員向けの研修会を行い、「加熱式タバコについての最新情報」として外部講師による講演会も行った。特定保健指導専門部会では、月に 2 回の事例検討会等を行っている。また保健指導従事者に対し「食事・運動・ストレス」について管理栄養士・健康運動指導士ら専門職による対面での研修会を行った。

精度管理については、総合精度管理委員会の下部組織であるワーキンググループ(以下WG)にて各課題に取り組んだ。肝疾患WGではウイルス性肝炎の受診勧奨用のリーフレット作成に取り組んだ。また子宮がん検診WGでは液状化細胞診を導入した。

(1)保健看護課

<概要>

保健看護課は人間ドックの看護業務や保健相談、あたまの健康（認知機能）チェックを担当している。血圧測定・問診では受診者の体調や病歴等の確認を行い、体調不良時は看護ケアを行い、受診者が安全に検査を受けることができるよう努めている。診察介助は問診や検査結果を確認し必要な情報を医師へ報告し、診察・結果説明が円滑に実施されるよう配慮している。当日の医師の結果説明の後に保健相談や特定保健指導を行い、要精査・治療受診勧奨や生活習慣改善支援を行っている。

<動向・成果>

令和5年度は医療安全体制の強化として体調不良者の観察室を整備した。また緊急時マニュアルや災害時アクションカードを見直し、「受診者食堂での気分不良者対応」や「地震発生時の対応」についてシミュレーションを行った。心電図の勉強会や過去2年間のインシデント振り返りを行った。

WEB問診導入に向け、関連部署と調整を行い、一部紙面での運用も残るが令和6年4月からWEB問診を開始することができた。

感染対策を継続し、受診者が安心して人間ドックを受診していただけるよう環境整備を行った。

保健相談では事例検討会を定期的に開催した。次回来所時の継続した支援に向け保健相談記録内容を見直した。保健相談技術チェックリストを見直した。リーフレットの整理を行い、「肝機能精査受診勧奨パンフ」「高血糖受診勧奨パンフ」の内容を見直した。肝機能は精査受診率向上を認めた。

特定保健指導は脂肪細胞の媒体を導入した。若干であるが動機づけ支援の実施率が向上した。終了率、改善率など今後評価予定である。また第4期特定健診・特定保健指導へ対応として関連部署と連携しシステム変更やスタッフ教育を実施した。

能登半島地震救護こころのケアに職員を派遣した。昨年度作成した減災カレンダーに基づき課内や他課と業務サポート体制をとりながら業務が継続できた。

<課題>

- ・WEB問診への全面移行・運用調整
- ・緊急時対応看護技術チェックリスト見直し
- ・令和6年度からの第4期特定健診・特定保健指導の運用調整
- ・特定保健指導実施率向上
- ・保健相談・特定保健指導の質の向上
- ・育児休業後の職場復帰支援

(2)健診保健課

<概 要>

健診保健課の主な業務内容は施設内外の健康診断に関わる業務とドック・施設内外の婦人科検査に関わる業務である。具体的には、血圧測定・問診・診察介助・婦人科検査介助のほか、人間ドックのレディースコースでは保健相談・特定保健指導、健康診断では予防注射業務を実施している。健康診断の各種問診票、結果票の作成取りまとめを行っている。

<動向・成果>

令和 5 年度から婦人科検査の液状検体細胞診をドック・施設内・施設外すべての健診で導入した。導入当初は課題も見られたが、対策を講じ問題なく実施できた。

令和 6 年度から開始される第 4 期特定健診やリスクアセスメント健診に関しての研修会を課内で複数回開催し、スタッフの知識を深めた。またシステムや体制の整備等を行うことができた。

令和 6 年度から開始される施設外での歯周病リスク検査の問診票、結果票の作成、ロジックの見直し等体制の整備を行った。

安全面においては子宮がん検診車での転倒・転落マニュアルを作成するとともに、当該検診車での転倒を想定した緊急時訓練、レディースセンターでの急変を想定した緊急時訓練を実施し対応の強化を図った。

教育面においては施設内健診新人看護職の部署マニュアルや技術到達チェックリストを見直し、中途採用の看護職に使用しさらなる改訂を行った。

施設内健診では前年度糖代謝検査で未受診の方に対して「高血糖受診勧奨パンフ」等の媒体を使用し、問診時に受診勧奨を行った。施設外健診では問診用パーテーションへ健康情報を掲示し、受診者への情報提供を行った。

<課 題>

令和 6 年度からの第 4 期特定健診、リスクアセスメント健診、歯周病リスク検査の安定稼働
対策型子宮がん検診の HPV 検査単独法の運用に向けての準備
健診現場でできる受診勧奨と精密検査受診率の向上への取り組み
WEB 問診のドック以外の範囲拡大への対応の準備
問診の質の向上と効率化

(3)外来看護課

<概 要>

外来看護課は、外来看護係と内視鏡看護係の2係からなる。外来看護係は、自施設の人間ドック・健診で再検査や精密検査となった受診者のフォローアップを目的とした保険診療外来において、問診、診察介助、保健指導などを実施している。内視鏡看護係は上部・下部消化管内視鏡検査の検査介助、検査前から体調回復までの看護ケア、機器の洗浄・消毒や管理など受診者が安全で安心して検査を受けられる支援を実施している。

<動 向>

外来看護係は、人間ドックや健診後の再検査、精密検査を行う自施設の役割を踏まえ、かかりつけ医や中核病院との連携を行った。禁煙外来は、ニコチン補助薬のうち内服薬の供給停止のため、貼付薬、認知行動療法等で継続実施した。受診者支援として、糖尿病、CKD、脂肪肝に対し支援パスを用いた保健指導を継続実施し、今年度は新規に高血圧の支援パス及び教育媒体を作成し支援に活かした。前年度の課題であった人間ドック・健診の関連部署との保健指導の情報共有について、外来の保健指導を紹介する説明会を実施した。

内視鏡看護係は、新型コロナウイルス感染症が5類移行後も、内視鏡検査において、スタンダードプリコーションとして、PPE（個人防護具）、検査用マスク着用等の感染対策を継続実施した。医療安全面では、前年度から検討していた上部消化管内視鏡検査での鎮静剤をミダゾラムに変更し、安全な検査運用に取り組んだ。緊急時対応及び災害時対応のシミュレーションを実施し、アクションカードの見直しを行った。

<成 果>

外来看護係は、糖尿病、CKD、脂肪肝、高血圧において支援パス及び媒体が充実し保健指導の強化につながった。人間ドック・健診の保健指導担当者に外来業務の周知ができた。

内視鏡看護係は、感染対策を継続的に実施することができた。上部消化管内視鏡検査の鎮静剤変更により、「以前より楽に受けられた」という声が多く聞かれ受診者満足度につながった。薬剤由来の偶発症は前年より減少した。

<課 題>

外来看護係は、各種支援パス及び媒体が充実してきたため、今後は活用による保健指導の評価が必要である。ドック・健診の関係部署と保健指導の情報共有、連携強化は、今後も対策を検討し継続して取り組む。外来機能の明確化、医療機関との連携、電子カルテの導入は、次年度も引き続き進める。

内視鏡看護係は、内視鏡医師と連携し、変更した鎮静剤（ミダゾラム）の安全な運用を継続して取り組む。引き続き情報収集を行いながら内視鏡機器、薬剤等の検討や感染対策の検討を行い、より安全で安心できる検査提供に向け体制整備に取り組む。

(4)お客様サポート課

<概要>

お客様サポート課は、お客様相談係と健康情報係の2係からなり、人間ドック・各種健康診断受診前後の問合せ窓口としての役割をもつ。

お客様相談係は、受診前の検査内容の相談を受け、オプション検査の案内、治療中の疾患や体調などを考慮し安心安全な検査の提供に努めている。

健康情報係は、検査結果に関する問合せや要精密検査の方を専門医療機関へつなぐ役割を担う。精密検査受診率向上のため医療連携機能を強化、未受診者への受診勧奨や精密検査結果の管理をしている。

<成果>

人間ドック・健康診断で要精密検査となった方を専門医療機関に紹介、質の高い医療提供に努めている。特に、赤十字のネットワークを活かし、隣接する熊本赤十字病院へ紹介することで利便性の向上にもつながっている。

2022（令和4）年度の精密検査受診率は、人間ドック 75.3%、施設外健診 67.5%、施設内健診 59.7%であった。人間ドックは、当日医師から結果説明や受診勧奨を受ける。また看護職も介入するため受診につながりやすいが、結果が後日郵送となる施設内外健診の受診率は低い傾向にある。そこで、施設内外健診の受診率向上の対策として、結果報告書発送時にリーフレットを同封し精密検査項目、医療機関受診までの流れの確認と受診報告をWEB上で実施し、精密検査受診率向上に取り組む。

<課題>

人間ドックにおける胃部X線検査の精密検査受診率が2年連続で低下し、かねてから課題としていた大腸がん検査の精密検査受診率を下回る結果となった。受診勧奨を強化し、改善に努めていく。

<調査報告>

各学会及び市町村団体から、以下の依頼を受け集計報告を行った。

- 令和5年 4月 地域保健・健康増進法事業報告（26市町村）
- 令和5年 5月 熊本県胃検診推進協議会 読影委員別結果報告
- 令和5年 5月 市町村がん検診に関する精度管理調査（熊本県）
- 令和5年 8月 全国労働衛生団体連合会 腹部超音波検査精度管理調査
- 令和5年 9月 全国労働衛生団体連合会 胸部X線検査精度管理調査
- 令和5年 9月 全国労働衛生団体連合会 胃部X線検査精度管理調査
- 令和5年 11月 日本人間ドック学会 健診施設におけるがん検診精度向上支援委員会調査
- 令和5年 11月 市町村がん検診に関する精度管理調査（宮崎県）
- 令和5年 12月 前立腺研究財団 前立腺がん検診実態調査
- 令和5年 12月 日本消化器がん検診学会 消化器がん検診実態調査
- 令和6年 1月 日本人間ドック学会 新型コロナウイルス感染症に対する健診施設の影響調査
- 令和6年 2月 日本CT検診学会 胸部CT検診全国集計
- 令和6年 2月 全国労働衛生団体連合会 一般健診項目等に関する検討会に関するアンケート

地域保健・健康増進法事業報告より、当センターの健診成績は以下(表1)の通り。

(表1) 地域がん検診の事業評価指数(許容値)と当センター検診実績(2021年度)との比較					
がん検診種類	要精検率 (許容値)	精検受診率 (許容値)	がん発見率 (許容値)	陽性反応適中度 (許容値)	全国の陽性 反応的中度
胃がん(X線)	4.0% (11.0%↓)	90.5% (70%↑)	0.05% (0.11%↑)	1.1% (1.0%↑)	1.91%
胃がん(内視鏡)	2.4%	100%	0.05%	2.0%	5.09%
大腸がん	4.8% (7.0%↓)	87.6% (70%↑)	0.18% (0.13%↑)	3.7% (1.9%↑)	3.05%
肺がん	0.3% (3.0%↓)	98.0% (70%↑)	0.11% (0.03%↑)	34.0% (1.3%↑)	2.64%
乳がん(MMGのみ)	2.6% (11.0%↓)	93.7% (80%↑)	0.33% (0.23%↑)	12.7% (2.5%↑)	5.84%
子宮頸がん	0.8% (1.4%↓)	95.5% (70%↑)	0.09% [※] (0.05%↑)	11.4% [※] (4.0%↑)	6.55% [※]

※「がん検診事業のあり方について(令和5年6月)」で公表された子宮頸がんのプロセス指標基準値では、CIN3以上の発見率・陽性反応適中度の値が示されたため今回のデータより追加しました。

<委員会>

- 医療安全推進室(随時) 医療安全に関する教育及び医療事故発生時の対応
- 医療安全管理委員会(月1回) 医療事故等の予防対策等の推進
- リスクマネジメント部会(月1回) 医療事故防止対策等の実効化
- 感染対策委員会(年4回) 感染対策及び防止に関すること
- 総合精度管理委員会(随時) 健診、検査に係る精度管理の評価・審議
- お客様サービス向上委員会(随時) 利用者に提供する各種サービスの向上に関すること

4. 健康増進部

健康増進部は、健康支援課（事務系スタッフ・運動指導士）、健康栄養課（管理栄養士）、地域産業保健課（保健師）で構成されており、日頃から多職種で検討を重ね、保健指導や健康の維持増進のための事業を行っている。健康支援事業については、32～38 ページを参照

(1)健康支援課

<概要>

健康支援管理係と運動指導係の2係で構成されており、健康増進部の事業管理や支援事業に関する各委員会の事務局も担当する。

（健康支援管理係） 特定保健指導予約・受付から3ヵ月後の結果処理までの事務管理業務全般
講師派遣等の調整

マッサージルームの運用およびティールーム管理

（運動指導係） 人間ドックにおける体組成測定、体力測定、運動指導

特定保健指導における運動指導

職員派遣（健康セミナー、健康講演など）

健康情報の発信（メディア、各広報誌など）

<動向>

人間ドック・所内健診の特定保健指導対象者の減少に伴い、初回面談利用者数も減少する結果となったが、利用率においては前年度より下がらないように作業部会をとおして毎回働きかけた。また、本年度は5Fフロアの見直しを行い、旧売店とティールームの大改修を実施。受診者へのサービス提供として、ひごろっかでの食後や次の検査までの待合室としてゆっくりと過ごしていただけるティールームが完成した。収容人数も前年度までの2倍に増やしている。職員派遣に関しては、コロナ禍の緩和により、オンラインでの対応から対面型が増え、メディアへの対応も増えてきた。また、運動動画は定期的に配信しており、再生回数を増やしている。今年度は2本作成し、来年度配信予定。

運動指導	1日人間ドック	429人
	2日人間ドック	3,421人（特定保健指導206人含む）
健康支援事業	健康セミナー、健康講演会（職員派遣）	36ページ参照
	各種メディア対応（新聞、雑誌など）	38ページ参照
	動画配信（公式YouTube）	38ページ参照

<課題>

令和6年度は、特定保健指導の第4期の開始と同時に第3期分も並行して実施するため、健診と特定保健指導の2つのシステムの細かいチェックが更に必要となる。また、人間ドックの受付前に大ホールを待合室として利用いただいているが、マッサージルームも含め、受診者サービスにおける5Fフロア全体の有効利用のための準備を進めているところである。

人間ドック運動指導については、引き続き質の高い指導の提供と指導実施数の増加、受診者の満足度および経年受診率の向上などを目指していきたい。また、健康講話・セミナー・メディア対応に関しては、依頼が少しずつ増加傾向で、コロナ禍前の状況に戻りつつある。今後、どのような状況にも対応できる環境づくりを構築し、常にアップデートした情報発信ができるようにしていきたい。

<委員会> ●支援事業検討委員会・品質管理委員会（不定期） ●特定保健指導作業部会（月2回）

(2)健康栄養課

<概 要>

健康栄養課は2係で構成され、第一健康栄養係は、人間ドック、外来保険診療などの個別栄養相談を中心に、また、第二健康栄養係は、特定保健指導や健康セミナー、講演、各種のメディア対応などの業務を中心に担当している。人間ドックの食事「日赤健康薬膳」の毎日の提供は、第二健康栄養係の調理員により行っている。

<動 向>

2023年、新型コロナウイルスの感染法上の位置付けが変更となり、生活や企業活動にも再び変化が表れ、セミナーにおいても対面型のものが復活してきた。長期にわたるコロナ禍を経て、健康事業へのニーズも多様化しているため、今後も柔軟な対応が必要と考える。

特定保健指導については、今年度も実施率アップのために関係課と協力しながら実施した。加えて、令和6年第4期特定保健指導に向けての準備、人間ドックにおいてはWEB問診への対応などシステム変更に伴う準備作業も並行して行った。

人間ドックの食事「日赤健康薬膳」については、今まで通り健康を大切にする食事のコンセプトは継承しつつ、見た目、盛り付け、レストラン内でのサービス向上に努めた。また、レストラン内で放映する動画もリニューアル、献立変更に伴うYouTubeレシピ紹介動画も課内スタッフにて作成し、新たな情報発信に努めた。

<成 果>

人間ドック業務	1日人間ドック 健康相談	4,927人
	2日人間ドック 栄養問診・栄養相談	2,120人
食事対応	食事提供数	35,241食
	アレルギー等特別食対応	143食
外来業務	外来栄養食事指導	162件
健康支援事業	健康セミナー、健康講演会(職員派遣)	36ページ参照
	各種メディア対応(テレビ、雑誌など)	38ページ参照

<課 題>

第4期の特定保健指導においては、利用率向上のみならずアウトカム評価の導入をはじめとした成果重視の指導が行われるようになるため、効率よく質の高い保健指導を確立していく必要がある。

健康増進事業は、コロナ禍を経て開催方法も多様化しており今後も柔軟性が求められている。また、企業と連携した食に関する企画も生まれつつあり、機を逃さず積極的に健康増進事業を展開できるよう知恵を出していきたい。

「日赤健康薬膳」については、新たに導入した調理機器を活用しながら、今後予測される働き手不足への準備を進め、調理員の負担を考慮しつつ、より魅力的な食事を提供できるように検討を重ねていく。

人間ドックの食事 ～ 日赤健康薬膳 ～

人間ドックの食事は「日赤健康薬膳」と名づけている。「医食同源」の考えのもと、食材の持つ特性を生かしながら季節やからだに合った食品や調理法を選び、体調維持や病気の予防に役立つ健康料理を目指し、管理栄養士が献立を作成している。食事の提供においては、受診者がレストランを訪れてから配膳し、適温でおいしく食べていただけるよう心がけている。

日赤健康薬膳は、体験型の健康教育と位置づけており、家庭の中にも取り入れていただけるよう動画や管理栄養士によるミニ講話、二次元コードを利用した動画レシピ視聴の案内などレストラン内の健康情報発信に努めている。

<日赤健康薬膳の食事のポイント>

- ① 1食の中で主食、主菜、副菜がそろった1食 700kcal 程度の栄養バランスのとれた食事
- ② 新鮮な食材の持ち味や自然のだしの旨味を生かした味付けで、1食の食塩相当量は3g 以下
- ③ 主食は食物繊維やビタミン類の多い、七分つき米や麦などの雑穀を使用
- ④ 不足しがちなビタミン、ミネラルを多く含む野菜、海藻、きのこなどを1日の目標量の半分以上使用
- ⑤ できる限り地産地消（県産）、国産のものを使用

<令和5年 2月～5月献立>

昼食（月・水・金曜）	昼食（火、木、土曜）	夕食
<ul style="list-style-type: none"> ・八穀ご飯 ・切り干し大根のみそ汁 ・れんこんの鶏つくね ・焼き魚の塩もみ野菜添え ・キャベツの甘酢和え ・アスパラと玉ねぎのサラダ ・もやしのピリ辛風 ・しょうがシロップ白玉 	<ul style="list-style-type: none"> ・麦ご飯 ・にんじんと玉ねぎの ポタージュ ・はちみつ照り焼きチキン ・鮭のソテー ・あおさのクリームソース ・野菜のカレーピクルス ・菜の花のアーモンド和え ・ミモザポテトサラダ ・甘酒豆乳プリン 	<ul style="list-style-type: none"> ・七分づきご飯 ・若竹汁 ・鱈の木の芽みそ焼き ・トマトソースの ロールキャベツ ・ブロッコリーとアボカドの ガーリックサラダ ・ほうれん草の湯葉巻き ・まめまめかき揚げ ・にんじんのマリネ ・いちごのアイス
熱量合計 615kcal 食塩相当量 2.8g	熱量合計 715kcal 食塩相当量 2.7g	熱量合計 690kcal 食塩相当量 2.9g

<令和5年 6月～9月献立>

<p>昼食 (月・水・金曜)</p>	<p>昼食 (火、木、土曜)</p>	<p>夕食</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・八穀ご飯 ・みそ汁 ・鶏肉の甘酒みそ焼き ・白身魚の香りパン粉焼き ・おからサラダ ・かわりきんぴら ・なすのごま酢 ・シナモンきな粉白玉 	<ul style="list-style-type: none"> ・麦ご飯 ・赤いソイポタージュ ・豚肉のハニーマスタード ・魚のサワーバター ・つけ込みグリル野菜 ・ジャーマンポテト ・紫キャベツのラペ ・みかんゼリー 	<ul style="list-style-type: none"> ・七分づきご飯 ・冬瓜のすまし汁 ・魚の梅しそ揚げ ・豆腐のハンバーグ ～ 季節の野菜添え ～ ・なすのみそグラタン ・夏野菜のサラダ ・きゅうりとみょうがの ごま酢あえ ・キウイのムース
<p>熱量合計 655kcal 食塩相当量 3.0g</p>	<p>熱量合計 645kcal 食塩相当量 2.7g</p>	<p>熱量合計 770kcal 食塩相当量 2.8g</p>

<令和5年 10月～令和6年1月>

<p>昼食 (月・水・金曜)</p>	<p>昼食 (火、木、土曜)</p>	<p>夕食</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・八穀ご飯 ・なめこのみそ汁 ・揚げ鶏の黒酢ねぎだれ ・鯛のとろろ蒸し ・菊菜のお浸し ・南関あげのなます ・からしれんこん風和え物 ・ゆず風味白玉 	<ul style="list-style-type: none"> ・麦ご飯 ・お豆のコンソメスープ ・豚肉のピカタ ・鮭のしょうゆバター ・チーズ粉ふき芋 ・ブロッコリーの ペペロンチーノ風 ・白菜とりんごのサラダ ・みかんゼリー 	<ul style="list-style-type: none"> ・七分づきご飯 ・粕汁風 ・ごぼう照り焼きハンバーグ ・ちり鍋 ・青菜の海苔和え ・もやしのナムル ・かぼちやのクリームチーズ ・紫キャベツのマリネ ・りんごっこおさつ
<p>熱量合計 705kcal 食塩相当量 3.0g</p>	<p>熱量合計 655kcal 食塩相当量 2.7g</p>	<p>熱量合計 695kcal 食塩相当量 2.9g</p>

(3)地域産業保健課

<概要>

企業や地域の健康づくり支援として特定保健指導や健康診断後の事後指導、保険者と連携したデータヘルス事業や健康講話を行っている。また、団体の健康支援を目的に産業医と連携した産業保健サポートサービス事業も担っている。

<動向・成果>

令和6年度から第4期特定保健指導が開始されるため、令和5年度はシステム改修、問診票等の改訂など準備の年であった。検討委員会の設置や職員向け研修会の開催など運用開始に向けて取り組んだ。また、健康診断当日は自身の健康や生活習慣について振り返る機会となるため、健診当日の特定保健指導実施が保険者から推奨されている。そのため健診当日の特定保健指導実施数増加に向けて検討を行った。血液検査結果の早め出力対応やマンパワーの問題、設備の問題等に取り組み、マンパワーは他課の協力を得てタスクシェアを開始した。対象者の待ち時間対策及び多くの方への支援につながるため今後も協力体制を進めていきたい。結果出力、設備問題も改善に向けて進めることができた。

産業保健事業では働く人や団体が生き生きと働けることを目的に支援を行っている。令和5年度は新規契約団体も増え年々産業保健事業の重要性が増しているように思われる。傾向としてはメンタル不調や復職支援の多い1年であった。今後も同様の傾向が考えられるため、迅速な対応がとれるように取り組んでいきたい。また、職場の健康づくりは年1回の健康診断では難しく、企業としても継続的に健康づくりに取り組むことが求められている。国や県でも職場全体で取り組む健康経営を推進しているが、当施設でもポピュレーションアプローチを主体とした健康経営サポートサービス事業開始に向けて検討を重ねた。サポートの内容や支援ツールの作成に取り組み令和6年度から開始となった。

<課題>

第4期特定保健指導の安定稼働が求められる。システム運用の状況やアウトカム評価に向けたスタッフ支援など状況を確認し対応していきたい。

産業保健事業では産業保健サポートサービスの需要が増えている。安定的な支援を提供できるように人員の確保・育成に努めたい。それと共に健康経営サポートサービス事業を軌道に乗せるため関係各課と連携していきたい。また、産業保健はリスクアセスメント健診の運用開始など次々と変化しているため、国の動きを注視し情報収集に努めたい。

5. 事務局

(1) 総務課

<概要>

- (人事係) 職員の人事、給与、労務管理、研修、福利厚生、賞罰、内規
(庶務係) 職員の出張、文書、宿日直、諸報告・届出、文書管理、医師確保・調整、各種行事、防火防災、熊本県健康管理協会事務局

<動向>

- ・業務改善活動の継続
- ・省力化可能な業務の洗い出しと業務の効率化
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のための各種対応
- ・事業継続計画(BCP)訓練の実施

<課題>

- ・安定した医師の確保
- ・働き方改革実現のためのDX推進
- ・健康経営推進のためのコミュニケーションの活性化
- ・将来を担う人材育成にかかる研修の実施
- ・With・After コロナ時代における新しい働き方の導入
- ・令和5年度新たな勤務評定制度導入に伴う実施体制

<委員会>

- ・防火・防災対策委員会(不定期) 防火防災管理の徹底、火災・地震などによる人的・物的災害の軽減の対策・検討
- ・安全衛生委員会(月1回) 労働安全衛生法に基づく事項の調査・審議
- ・個人情報保護委員会(不定期) 個人情報の保護・管理に関する事項の審議・検討
- ・教育研修推進委員会(不定期) 職員教育、研修を統括し、職員の資質の向上を図る

<事務局>

一般財団法人 熊本県健康管理協会

理事長 : 小山 和作

昭和47年12月に発足した熊本県健康管理協会は、疾病の予防、健康管理にかかる各種活動を県民の健康と福祉の増進に貢献することを目的として動を行ってきた。

令和6年3月末を以ってこれまでの役割を終え解散となる。

【河津寅雄賞】

保健衛生・福祉の分野で功績のあった者に対する顕彰事業

【事業報告】

- 令和5年6月12日 第1回 理事会・評議員会
令和5年9月4日 河津寅雄賞選考委員会
令和5年11月14日 第2回 理事会・評議員会／第27回河津寅雄賞授賞式
令和6年3月31日 一般財団法人熊本県健康管理協会 解散

(2)会計課

<概要>

会計係と用度施設係の2係から構成されている。

<動向・成果>

当センターの医療機器・設備等においては、計画的に機器の更新を進めている。令和5年度は、自動分析装置1台、超音波診断装置2台（腹部用）、上部消化管ビデオスコープ5本、などを更新し、これらの整備により精度の高い検査が可能となった。

また、外壁工事や南館5階ティールームなどの改修工事を行い、建物の耐久性の向上や受診者サービスの充実を図った。

会計係においてはセミセルフレジ2台を導入し、受診者の利便性を高め、業務の効率化を図った。

このほか、熊本県SDGs事業者としての活動の一環で、可燃ごみ等の分別・リサイクルを推進し、令和5年9月から令和6年3月までの期間で、前年度比約1.3トンの焼却ごみを減量することができた。

<委員会>

●購買委員会（令和5年11月28日）物品の購入にかかる機種選定理由及び要望事項等の審議・検討

(3)事業推進課

<概要>

人間ドックや健康診断の営業活動を第一職域推進係・第二職域推進係・地域推進係の3係で行っている。

- ・第一職域推進係・・・共済組合・健康保険組合など加入事業所への推進業務
- ・第二職域推進係・・・協会けんぽ加入事業所への推進業務
- ・地域推進係・・・市町村の住民健診についての推進業務

令和5年度 健診・保健事業担当者研修会

当センターにおいて、健康診断を利用されている各種団体（共済組合・健保組合・協会けんぽ・国保・各市町村役場）の健康管理担当者の方々を対象として、今後の健康事業への取り組みの一助となりうる医療や保健事業に関する情報を提供した。また当センターの業務紹介や提案も行った。令和5年度は、昨年度に引き続きオンライン配信(zoom)で実施した。

開催日時 令和6年2月29日(木)

開催場所 オンライン配信(zoom)

プログラム

1. 開会挨拶 日本赤十字社熊本健康管理センター 所長 吉田 稔
2. 情報提供
 - ① 歯周病リスク検査「国の動向」と歯周病と生活習慣病の関係性
アドテック株式会社 企画開発部 部長 小林 薫 氏
日本赤十字社熊本健康管理センター 第一検査課 榎本 泰志
 - ② 「健康への投資」健康経営について
日本赤十字社熊本健康管理センター 地域産業保健課 中野 裕美
 - ③ 胃部X線検査のデータで見る現状と当センターの取り組み
日本赤十字社熊本健康管理センター 放射線課 作村 浩道
3. 事業紹介
今年度の取り組み・次年度に向けての取り組み
日本赤十字社熊本健康管理センター 事業推進課 若木 陽子
4. 閉会挨拶 日本赤十字社熊本健康管理センター 事務部長 島田 雅美

(4) 業務管理課

<概要>

(人間ドック管理係)

人間ドック受診者の受付・案内、検査変更時の対応、料金の説明、宿泊案内等、その他人間ドック管理業務全般。

(外来管理係)

人間ドック・各種健康診断後の再検査対象者への案内および予約、受付・会計、保険請求業務等、医療事務全般。

<動向>

人間ドックでは、前年度は新型コロナウイルス感染症の影響による受診控えも回復傾向にあり受診者数は増加していたが今年度は若干の減少となり、新型コロナウイルス感染症の影響以前の受診者数と同程度となった。

4階人間ドック受付・1階保険診療外来受付は前年に引き続き消毒液の設置など感染症対策をしている。受診するコース・検査内容によって案内時間を分け、別階の待合フロアへご案内して混雑回避を図る対策も継続している。また、受付前など一部フロアをリニューアルし、より快適に過ごしやすい環境整備をおこない受診者サービス向上に取り組んでいる。

<成果>

・1 日人間ドック

1日人間ドック受診者は、26,026人(男性13,801人、女性12,225人)、前年比499人の減少であった。前年度より減少はしたものの、新型コロナウイルス感染症の影響は落ち着き、以前の受診者数に戻りつつある。

・2 日人間ドック

2日人間ドック受診者は、3,556人(男性2,606人、女性950人)、前年比153人の減少であった。ここ数年減少傾向が続いており、新型コロナウイルス感染症の影響による受診控えに関わらず、今年度も受診者数の減少は続いている。

・外来事業

外来受診者は、5,958人(初診290人、再診5,668人、その他81人)、前年比284人の増加であった。新型コロナウイルス感染症の受診控えから回復し、特に代謝・呼吸器外来の受診者数が増加した。

<課題>

- ・ICTを取り入れた新たな受付方法の検討
- ・快適な受診環境づくり

<委員会>

- 人間ドック連絡会議(月1回)
- 人間ドック流れ部会(不定期)
- 人間ドック事業検討委員会(不定期)
- 保険診療委員会(不定期)

(5)健診管理課

<概 要>

健診管理係と車輛管理係の2係で構成され、健康診断を安心して受診していただけるようサービス向上、環境整備に取り組んでいる。

- ・健診管理係・・・施設内・施設外健診における受診者の受付、案内及び会場運営等の健康診断管理業務全般
- ・車輛管理係・・・健診車輛運転業務、健診車輛および公用車の整備・安全管理業務

<動向・成果>

健診事業の動向および健診受診者数の実績については26～31 ページ参照。

<課 題>

今後も、新規及び経年受診者など多くの方に選ばれ続ける施設を目指し、受診者サービスの向上（環境整備、スタッフの接遇教育等）を推進していく。

施設内健診においては、新たな検査項目やセレクト健診の充実を図り、時代の流れに沿った健診や受診者のニーズに合った内容を検討していく。また、ハード面では人間ドックと同様に自動チェックイン機の導入、WEB問診の実施に向けても準備を行う。

施設外健診においては、ICT※リモートデスクトップによる健診受付業務を主に事業所健診から開始し、業務の効率化、処遇改善に寄与した。また、令和6年度には地域健診にて検証を行う予定である。

※リモートデスクトップ・・・施設内健診システムの遠隔操作による健診受付

(6)総合予約管理課

<概要>

総合予約管理課は人間ドック予約係と健診予約係の2係で構成されている。主な業務として人間ドック及び施設内・施設外健康診断の予約調整、資料発送、お問い合わせ対応等を行っている。

<動向・成果>

令和5年度も例年と変わらず6月頃までに予約のピークを迎え、年間全体の予約数のうち人間ドックは約9割、健康診断は約7~8割近くの予約を受け付けた。

1日人間ドックについては、令和5年度から1日ドックと同じフロアで行っていた付加健診を健診フロアに移したことで、標準コースの予約枠が年間800名程度拡大となり、大口団体の予約者増加に対応した。また、年々、上部消化管内視鏡検査の希望者は増加傾向にあり、予約枠の見直し、状況に応じた予約調整等の結果、前年度に比べ177名増加した。

2日人間ドックについては、新設した2日ドック総合+胸部CTコースに788名の予約があったが、1日人間ドックへのニーズの移り変わりなどもあり、全体では予約数が年々減少している。しかし、全大腸内視鏡検査については希望者が多く、キャンセル待ち者に対して電話連絡などを積極的に行った結果、前年度に比べ20名増加した。

健康診断については、予約の電話が繋がりにくいなどの課題を解消するため6月から一部のコースでWEB予約サービスを開始し、令和5年度は230名程の予約を受け付けた。

令和5年度の予約数としては、増加要因よりも感染症の流行や同業他施設の開設など外的要因と思われる影響が大きく、減少する結果となった。

<課題>

- ・人間ドック・健康診断の効率的な予約管理
- ・上部消化管内視鏡検査や全大腸内視鏡検査の希望者に対して空きが足りない状況の改善
- ・自動封入封かん機の活用及び資料発送業務の効率化
- ・人間ドックのWEB予約サービスを導入

(7)情報管理課

<概要>

情報管理課は結果管理係とシステム管理係の2係で構成されている。

(結果管理係) 人間ドック後日結果報告書作成・発送、施設内・外の健康診断結果の入力、結果報告書作成・発送、人間ドック・健診等結果電子データ作成・発送、人間ドック・健診結果の再発行、画像CDの発送等を行っている。

(システム管理係) コンピュータシステムの導入・開発・運用、コンピュータシステムに関するハードウェア・ソフトウェアの運用、整備及び保守・管理などを行なっている。
現在、業務におけるインターネットの利用が必須となっているが、個人情報の流出事例や医療機関に対するサイバー攻撃の増加等、情報に対する脅威も増大していることから、情報セキュリティに関する職員の教育、対策等を行なっている。

<動向・成果>

1) システム関連

令和5年4月	健診システムチャット機能本運用開始
令和5年7月	施設外リモート受付システム本運用開始
令和5年7月	業務系端末(PC)更新整備
令和6年3月	医用画像情報システム(PACS)サーバー更新

人間ドック・施設内健診において、リアルタイムに情報を共有するツールとしてチャット機能を独自に開発し、令和5年4月から運用を開始した。従来使用のチャットソフトと比較し、入力・確認・検索・視認性等の機能が強化されており、業務負荷の軽減、情報伝達・共有の効率化、受診者サービスの向上が図られた。

令和4年度に試行を行った施設外リモート受付システムについては、令和5年7月から職域健診で本格的に運用を開始し、検体処理等の開始時間の短縮、一部団体で実施できていなかった前回結果の現場での確認が可能となり、業務の効率化、職員の負担軽減に大きく貢献した。今後、職域健診における実施数拡大、地域健診での実施を予定している。

令和6年3月には、人間ドック・健診において、年々重要性を増している画像診断を支える医用画像情報システムの更新を行い、増加する医用画像の保管容量を確保するとともに処理速度の向上等機能強化を行った。

令和6年4月から開始される第4期特定健診・特定保健指導への対応のため、上半期から準備を開始し、所内及び健診システム開発業者と打ち合わせを行い、システム改修を取り進めた。

ICT推進の重点事項として、令和6年4月から自動チェックイン機、WEB問診システム(人間ドック)の導入を予定しており、先進施設の見学、仕様作成、業者選定、システム開発作業、運用検討等の準備を取り進めた。令和6年3月に受診者のWEB問診の事前入力を開始、同月にリハーサルを実施し、予定どおりスムーズに稼働できるよう準備を整えた。

その他、業務系端末(PC)180台の更新、ファイルサーバーの更新及び運用の整理、本社主導による攻撃型メール訓練・情報セキュリティ研修等を実施した。

2) 統計・実績報告

令和5年4月	地域保健・健康増進事業報告
令和5年4月	日本赤十字社 医療施設等事業概要調査
令和5年6月	全国労働衛生団体連合会 会員機関実勢調査
令和5年6月	予防医学事業中央会 健診各種調査

(8)総合企画課

<概要>

第一企画係、第二企画係の2係で構成され、主にセンター全体の事業調整や新規事業の企画立案、研究会の事務局、外部からの調査・研究依頼の受入窓口、広報活動業務を行っている。

<動向・成果>

①事業調整

1) 令和6年度重点事項の作成

事務部長、事務部8課長、健康支援課長で構成される管理部門会議を中心に、令和5年度重点事項の進捗確認と令和6年度重点事項を事業毎に検討・作成し、周知を図った。

2) 各事業検討委員会の運営

人間ドック、健康診断、健康支援の3事業において各事業の効率的かつ適正な運営を図るため、管理部門会議の諮問機関として各事業検討委員会を設置し運営している。

各事業検討委員会では、事業全般の運営、現状把握及び評価、事業の整備及び体制、新規事業の検討及び立ち上げ、検査項目や料金などについて審議した。

3) 次期ビジョン・基本方針及び令和7～9年度3ヵ年基本方針の策定

令和6年度が次期3ヵ年計画の策定年度であることから、職員の意見集約を図るため、課長補佐・係長・主任・希望する一般職員を対象にワールドカフェを開催した。
集約した意見は令和6年度の同ビジョン・方針等策定に活用する予定である。

②研究会事務局

【赤十字健康管理事業研究会】

赤十字の医療施設の健診事業関係者が一堂に会し、日本赤十字社が行う健康管理事業は今後どのようにあるべきかを考え、健康管理事業の現状と未来を探求することを目的としている。

第28回赤十字健康管理事業研究会は、前橋赤十字病院に於いて4年ぶりに集合型で開催し、医師、保健師、事務等、87名の参加があり活発な意見交換が行われた。後日、アーカイブ配信を行った。

会長：吉田 稔（令和2年4月～）

事務局：日本赤十字社熊本健康管理センター総合企画課

施設会員数：59施設

《事業内容》

- ・研究会の開催
- ・研究会誌の配信
- ・会員間の情報交換と連絡
- ・その他目的達成に必要な事業

《事業報告》

月 日	事業内容	開催場所
4月	理事会	文書審議
8月31日	第28回赤十字健康管理事業研究会	前橋赤十字病院
12月6日	運営委員会	オンライン開催
2月15日	運営委員会	オンライン開催

③調査研究

研究課題	研究責任者	研究協力期間
呼吸機能および併存症に関する横断的・縦断的疫学研究【疫学】	熊本大学大学院生命科学研究部 生体情報解析学講座 教授 大森 久光	令和5年4月～ 令和8年3月
喫煙および受動喫煙の有無と呼吸機能への影響評価	熊本大学大学院生命科学研究部 生体情報解析学講座 教授 大森 久光	令和5年4月～ 令和8年3月
バイオメーカーを用いた加熱式たばこによる受動喫煙の健康影響を評価するための研究	熊本大学大学院生命科学研究部 生体情報解析学講座 教授 大森 久光	令和5年4月～ 令和8年3月
低線量CTによる肺がん検診の精度および死亡減少効果評価のための個人単位ランダム化比較試験(6年目)	日本医療研究開発機構 (AMED) 胸部CT 肺がん検診班 (佐川班) 班長 東北医科薬科大学 教授 佐川 元保	平成29年4月～ 令和7年3月

④広報活動

対外的広報活動として、機関誌「ハイ健康です」を年3回発行。また、事業実績報告書・各種チラシや各種パンフレットの作成に加え、ホームページの管理・運用、Facebook、YouTubeによる情報発信を行なった。テレビ、新聞、情報誌などのメディア取材依頼及び原稿依頼に関しては窓口として随時対応した。

1) 広報作業部会

各課から部会員を選任し、定期的な部会の開催を行うとともに、事業実績報告書や機関誌「ハイ！健康です」の編集、Facebook 配信においては掲載内容の検討や記事を作成した。

2) 広報誌等の発行

1. 事業実績報告書の発行

令和4年度事業実績報告書を作成し、関係機関へ配布及びホームページへ掲載した。また、各検査データについてもホームページに掲載した。

2. 機関誌「ハイ！健康です」の発行

年3回定期的に発行し各行事、事業内容の紹介、健康に関する情報等を掲載し、ホームページに電子データを掲載した。また、令和6年度発行分（第162号）から機関誌のリニューアルを予定しており、公募型プロポーザルを実施し制作委託業者を選定した。

- ・大きさ A4判
- ・ページ数 8ページ
- ・発行部数 第159号 3,000部 令和5年5月1日発行
第160号 3,000部 令和5年9月1日発行
第161号 3,000部 令和6年1月1日発行
- ・配布先 人間ドック受診者（希望者）、赤十字関係、事業所、市町村、共済組合、健康保険組合、優友クラブ会員、人間ドック・予防医療事業関連施設 等

3) イベント活動

1. 赤十字フェスタ in イオンモール熊本

本フェスタは昨今の新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和2年度以降は開催を中止していたが、令和4年度から大型商業施設を会場としてイベント規模を縮小し開催している。

日時：令和5年11月12日（日）10：00～16：00

目的：日赤熊本4施設合同で開催し、赤十字活動についてより理解を深め、身近に感じていただくこと。

場所：イオンモール熊本 きらきらタワー入口前・駐車場

（日本赤十字社熊本県部、熊本県赤十字血液センター、熊本赤十字病院、日本赤十字社熊本健康管理センター）

参加者：約1,000人

日赤熊本の4つの施設が集結！
楽しい発見がいっぱい！

見て、触れて、体験しよう

子ども用ナース服・救護服を着て記念撮影！

楽しみ！
ガラポン抽選会を開催

体験測定も好評です！

赤十字の車両を間近で見よう
ドクターカー・NEO・胃部X線検診車・救護車両・血液供給車

全身反応測定
献血アプリ登録ブース
模擬血液製剤の展示
巨大ハートラちゃんとの
写真撮影スポット

赤十字フェスタ

in イオンモール熊本

日時 **2023.11.12 sun** 参加無料
10：00 - 16：00

場所 **イオンモール熊本**
キラキラタワー入口前（3番入口）
（上益城郡嘉島町大字上島 2232）

会場では手指消毒を行っています

献血も同時に実施します！
【受付時間】 10：00 - 12：00
13：15 - 16：00
【受付場所】 総合インフォメーション裏

日本赤十字社 熊本県支部 熊本赤十字病院 熊本県赤十字血液センター 日本赤十字社 熊本赤十字病院 熊本赤十字病院

【イベント内容】

◆展示コーナー

模擬血液製剤・血液供給車

ドクターカー・NEO・胃部X線検診車・救護車両

◆体験エリア

子ども用ナース服・救護服試着写真撮影

全身反応測定（反射神経測定）

体組成測定

献血アプリ登録ブース

巨大ハートラちゃんとの写真撮影スポット

ガチャガチャ抽選会

2. すばいす 30 周年感謝祭

赤十字及び当センターをより身近に感じてもらい、がん検診の情報発信、体組成測定などを通して健康について考えるきっかけにさせていただくため、ブース出展の形式で参加した。

日 時：令和6年3月23日（土）～24日（日）10：00～17：00（日曜日は16：00終了）

場 所：グランメッセ熊本 展示ホールCD

参加者：イベント全体で、1日目 約6,000人 2日目約9,000人

出展内容：赤十字能登半島地震対応パネル紹介及び義援金募集、体組成測定、全身反応測定（反射神経測定）、子ども用ナース服・救護服試着写真撮影、人間ドック・健診予約、健康情報発信、ガチャガチャ抽選会

その他活動

1. 研究学会発表等一覧

月 日	学会名(開催地)	発表演題	発表者
6月10日～ 11日	第48回日本超音波 検査学会学術集会 (大阪市)	腹部超音波検診における膵癌発見の現状と課題	田中 信次
6月30日～ 7月2日	第62回日本消化器 がん検診学総会 (仙台市)	コロナ禍の理由で超音波検診が中止となった 地区の影響	山口 勝利
9月1日～ 2日	第64回日本人間ド ック学会学術大会 (高崎市)	当施設における腹部超音波検査の成績	阪本 美紀
9月1日～ 2日	第64回日本人間ド ック学会学術大会 (高崎市)	人間ドックと外来の継続支援の現状～保健指導 スタッフの意識調査から～	越智 青華
9月1日～ 2日	第64回日本人間ド ック学会学術大会 (高崎市)	緑内障に特徴的な所見導入による新規緑内障 発見率の上昇：9年間の横断研究	窪田 健一
12月16日 ～17日	第51回日本乳腺甲 状腺超音波医学会 学術集会 (東京都)	乳腺超音波検査で見つかった10ミリ以下の 腫瘤についての検討	石元 留美
3月7日～ 9日	第94回日本衛生学 会学術総会 (鹿児島市)	健診受診時における有効な緑内障発見方法に 関する検討	窪田 健一

2. 論文・著書

論文名	掲載誌	著者
令和4年度 がん総合相談に携わる者 に対する研修事業(事業報告)	一般社団法人 日本サイコオン コロジー学会 令和5年(2023) 年3月	吉田 稔 他
An observational cohort study of interstitial lung abnormalities (ILAs) in a large Japanese health screening population (Kumamoto ILA study in Japan: KILA-J)	BMC Pulmonary Medicine	Kazuya Ichikado, Hidenori Ichiyasu, Kazuhiro Iyonaga, Kodai Kawamura, Noritaka Higashi, Takeshi Johkoh, Kiminori Fujimoto, Jun Morinaga, Minoru Yoshida, Katsuhiko Mitsuzaki, Moritaka Suga, Naoya Tanabe, Tomohiro Handa, Toyohiro Hirai & Takuro Sakagami
Phase III study of bilayer sustained-release tramadol tablets in patients with cancer pain: a double-blind parallel-group, non- inferiority study with immediate- release tramadol capsules as an active comparator	Supportive Care in Cancer Volume 32, article number 69, (2024)	Masaharu Shinkai, Noriyuki Katsumata, Shinichi Kawai, Shoichi Kuyama, Osamu Sasaki, Yasuhiro Yanagita, Minoru Yoshida, Shima Uneda, Yasushi Tsuji, Hidenori Harada, Yasunori Nishida, Yasuhiro Sakamoto, Daisuke Himeji, Hitoshi Arioka, Kazuhiro Sato, Ryo Katsuki, Hiroki Shomura, Hideshi Nakano, Hideaki Ohtani, Kazutaka Sasaki & Takeshi Adachi

3. 職員研修

月 日	研 修 会 名
4月3日～3月31日	個人情報保護研修会（社内イントラで配信）
4月3日～3月31日	ハラスメント・個人情報保護に関する研修会（新規採用者随時）
4月3日	日赤熊本新規採用職員研修会（病院）
4月4日	新規採用職員研修会（5Fホール）
6月15日～7月9日	医療安全救急法研修会（WEB配信）
8月28日・9月21日	効果的なパワーポイント作成術研修会
11月7日～9日	消防設備の研修
11月22日・12月1日	感染管理職員全体研修会（講話）
12月4日～2月29日	第2回感染管理職員全体研修会（実技・手指衛生）
1月9日～1月31日	インシデントに関する研修会
1月19日	AED実技訓練研修会
3月19日	医療安全研修会（係長以上）

4. 研修・見学等受入状況

(13件 75人)

月 日	団 体 名	内 容	人
4月28日	公益財団法人慈愛会いづろ今村病院	施設見学	7
4月28日	社会医療法人雪の聖母会聖マリア ヘルスケアセンター	施設見学	8
5月8日～7月28日	熊本大学医学 部保健学科放射線技術 科学専攻 4年次生	臨床実習	13
5月29日～12月19日	熊本大学医学 部保健学科看護学専攻 4年次生	公衆衛生看護実習	20
8月3日～4日	熊本県立第二高等学校	インターンシップ	2
8月21日～29日	熊本学園大学	健康産業施設等現場実習	1
9月11日～12日	熊本市立西原中学校	職場体験学習	2
10月31日～1月12日	熊本保健科学大学 医学検査学科 3学次生	臨地実習	6
1月23日	韓国医学研究所 検診センター	施設見学	4
2月26日～27日	一般社団法人大学コンソーシアム熊本	インターンシップ	2
3月1日～18日	あまくさ乳腺クリニック	マンモグラフィ撮影技術の習得	2
3月7日～8日 3月12日～13日	公立大学法人熊本県立大学	キャリア体験演習	4
3月29日	公益財団法人熊本県総合保健センター	施設見学	4

令和5年度 事業実績報告書

発行 日本赤十字社熊本健康管理センター

所長 吉田 稔

〒861-8528

熊本市東区長嶺南二丁目1-1

TEL 096-384-3100 (代表)

FAX 096-387-8278

E-mail kenkan-info@kumamoto-kkc.jrc.or.jp

URL <https://www.kenkan.gr.jp/>

令和6年6月